LIFE LIGHT LOVE

2022年度 宗教活動報告書

Christian Activities of TOHOKU GAKUIN

第４号

神は愛です。愛の内にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。（１ヨハネ４：16）

聖書協会共同訳

学校法人東北学院
東北学院大学
東北学院中学校・高等学校
東北学院榴ケ岡高等学校
東北学院幼稚園

発行日　2023年7月31日

東北学院宗教センター

巻　頭　言

ひとつのからだとして

東北学院院長・学長（宗教センター所長）
大西　晴樹

新型コロナウイルス感染症は、感染拡大から４年目を迎え、ようやく衰えを見せ始め、対面での宗教活動が復活しつつある。学校法人東北学院の各設置校を架橋してきた宗教センターは、丁度その活動開始の時期がコロナ禍の時期と重なり、いわば「水面下」での活動を余儀なくされてきた。

しかしながら、コロナ禍においても宗教センターは、各設置校において、チャプレンやセンター主任がリードする祈祷会を年２回開催してきた。祈祷会には、院長、各設置校の校長、園長、宗教主任が必ず出席し、各校の教職員有志とともに祈りをあわせてきた。また機関紙『いのち　ひかり　あい』、東北学院礼拝説教集、そしてこの宗教活動報告書『LIFE LIGHT LOVE』を刊行し、お互いに繋がってきたのである。その成果として、榴ケ岡から始まったクリスマス・イルミネーション点灯式が中高、大学、幼稚園にまで広がり、コロナ禍のみならず、戦争で陰りがちであった暗き世を、キリストにある光で灯すことになった。

さて、私は、いわば「水面下」における宗教センターのこのような弛みない日常活動は、東北学院という土壌における種まきだと考えている。その土壌がよきものであるならば必ず実を結ぶ。コロナが収束に向かいつつある中、東北学院は新たなチャレンジをしている。幼稚園の施設型給付への転換、中高の男女共学化、榴ケ岡のコース制と単位制、大学の五橋新キャンパスの開設と４学部の設置。私たちは大きな転換期を迎えているのである。

東北学院の伝統であるが、学校礼拝出席者が多いということではおそらく全国第一位のキリスト教学校である。しかしながら、３年間に及ぶコロナ禍の中で、対面礼拝や讃美歌の斉唱が制限される中、その回復は至難の業であり、多くの時間と工夫が必要である。

このような転換期において学校法人東北学院のブランドマークが制定され、各設置校で用いることになる。1886という創立年とスクールモットーの LIFE LIGHT LOVE の文字が刻まれたデザインである。学院が迎える大きな転換期において、コロナ禍の収束により学院の宗教活動を回復させ、いっそう発展させるためには、各設置校が一致して歩んでいかなければならない。「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、平和の絆で結ばれて霊による一致を保つように熱心に努めなさい。体は一つ、霊は一つです。それはあなたがたが、一つの希望にあずかるように招かれたのと同じです」（エフェソの信徒への手紙４章２節～４節）と聖書は教えている。

― 目　　次 ―

巻頭言

ひとつのからだとして

東北学院院長・学長（宗教センター所長）　大西　晴樹 …… 1

2022年度　宗教活動報告

1）法 人 事 務 局

・活動報告 …… 3

2）宗 教 セ ン タ ー

・活動報告 …… 7

・ランカスター神学校他への訪問調査報告 …… 12

・建築が語る東北学院の歴史

東北学院大学工学部　環境建設工学科　准教授　﨑山　俊雄 …… 17

3）大　　学

・活動報告 …… 23

・第66回教職員修養会報告 …… 30

第１回講演「TG 草創期を支えた宣教師たちの教育観」

大学宗教主任　藤野　雄大 …… 31

第２回講演「「地の塩」という生き方―聾唖教育に関わった卒業生たち―」

東北学院史資料センター所長　河西　晃祐 …… 34

第３回講演「キャンパスライフを振り返り、今思うこと」

台原中学校教諭　小椋　汐里 …… 37

・2022年度東北学院大学卒業礼拝説教「LIFE LIGHT LOVE」

大学宗教部長　原田　浩司 …… 44

4）中学校・高等学校

・活動報告 …… 47

・教職員修養会について …… 51

5）榴 ケ 岡 高 等 学 校

・活動報告 …… 53

・年間聖句について …… 58

「知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。」コリントの信徒への手紙一 8章1節

6）幼　　稚　　園

・活動報告 …… 59

・土樋訪問について …… 62

2022年度

法人事務局　宗教活動報告

2022年度　法人事務局　宗教活動報告

1．創立136周年記念式典（縮小開催）

（1）創立記念式

日　時　　2022年５月14日（土）９時30分

場　所　　ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

司　式　　齋藤信二法人事務局長

参加者　　42名（院内関係者のみ）

（2）校祖墓前礼拝

日　時　　2022年５月14日（土）10時30分

場　所　　北山キリスト教墓地

参加者　　７名（理事長、院長、法人事務局長、宗教部長、庶務部長、事務局２名）

2．第73回公開東北学院クリスマス

日　時　　2022年12月16日（金）～31日（土）

場　所　　オンライン配信にて実施

司　式　　原田浩司宗教部長

説教者　　赤井慧尚絅学院中学校・高等学校　聖書科・宗教部主任

説教題　　『あなたのために、生まれました』

3．東北学院職員クリスマス

（1）礼　拝

日　時　　2022年12月24日（土）10時00分

場　所　　ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

司　式　　原田浩司宗教部長

説教者　　原田浩司宗教部長

説教題　　『静かな夜、聖なる夜 ～ Silent night, Holy night』

参加者　　52名

（2）祝　会（新型コロナウイルス感染症対策により中止）

4．学校法人東北学院宗教協議会

（1）第77回

日　時　　2022年10月４日（火）14時30分

場　所　　土樋キャンパス８号館第３・第４会議室

参加者　　23名

（2）第78回

日　時　　2023年 3月7日（火）14時30分

場　所　　土樋キャンパス8号館第3・第4会議室

◎キリスト教学校教育同盟関係

1．東北・北海道地区協議会総会

日　時　　2022年5月20日（金）14時30分～16時03分

場　所　　Zoomによるオンライン開催

出席者　　大西晴樹院長（代表理事）、原田浩司宗教部長、阿部恒幸中学校・高等学校校長、西間木順榴ケ岡高等学校宗教主任、工藤彩絵子（事務局）

2．キリスト教学校教育同盟第110回定時総会

日　時　　2022年6月3日（金）10時00分～4日（土）12時30分

場　所　　横浜共立学園（Zoomによるオンライン併用）

参加者　　原田善教理事長、大西晴樹院長・学長、原田浩司宗教部長、西間木順榴ケ岡高等学校宗教主任、工藤彩絵子（事務局）

3．第66回事務職員夏期学校

日　時　　2022年7月23日（土）10時00分～15時00分

場　所　　Zoomによるオンライン開催

参加者　　芳賀夕佳、安藤快人、小林夏菜、石井崇哉、小笠原健太、本名梨琳、松田千津子（実行委員）

※新採用職員研修として位置づけ

4．第7回全国災害支援連絡会議

日　時　　2022年8月8日（月）14時00分～9日（火）18時00分

場　所　　仙台基督教会、石巻市、南三陸町

参加者　　西間木順榴ケ岡高等学校宗教主任（委員）、田口修総務部次長兼総務課長（大西晴樹院長　東北・北海道地区代表理事として挨拶）

5．第12回中堅事務職員リトリート

日　時　　2022年8月22日（月）9時30分～15時50分

場　所　　Zoomによるオンライン開催

参加者　　松本尚之、森谷徹（実行委員）

6．第８回全国事務局長・事務長会議

日　時　　2022年８月29日（月）10時00分～17時00分

場　所　　Zoom によるオンライン開催

参加者　　齋藤信二法人事務局長

7．2022年度東北・北海道地区教育研究集会大学部会

日　時　　2022年８月18日（木）10時30分～15時25分

場　所　　Zoom によるオンライン開催

当番校　　尚絅学院大学

参加者　　原田善教理事長、大西晴樹院長･学長、原田浩司宗教部長（教研全国委員）、村野井仁副学長（総務担当）、岩谷幸雄工学部長、川島堅二総合人文学科長、藤野雄大大学宗教主任、野村信宗教センターチャプレン（講師）、鐸木道剛理事長特別補佐、工藤彩絵子（事務局）

8．第７回東北・北海道地区教育研究集会新任教師研修会

日　時　　2022年９月５日（月）９時30分～16時30分

場　所　　榴ケ岡高等学校

当番校　　榴ケ岡高等学校

参加者　　大西晴樹院長（講演講師）、河本和文榴ケ岡高等学校校長、佐藤周榴ケ岡高等学校副校長（発題）、石山佳歩榴ケ岡高等学校教諭、西間木順榴ケ岡高等学校宗教主任

9．第２回キリスト教活動担当事務職員研修会

日　時　　2022年９月９日（金）13時00分～15時30分

場　所　　Zoom によるオンライン開催

参加者　　中田裕輔（実行委員）

10．第７回本部・地区事務局担当者会議

日　時　　2022年９月24日（土）９時30分～11時30分

場　所　　Zoom によるオンライン開催

参加者　　工藤彩絵子（事務局）

11. 東北・北海道地区教育研究集会中高部会

日　時　　2022年10月27日（木）13時00分～28日（金）16時00分

場　所　　宮城県仙台市（仙台ガーデンパレス及び東北学院中学校・高等学校）

当番校　　東北学院中学校・高等学校

参加者　　講師：片瀬一男教養学部教授、阿部恒幸中学校・高等学校校長、岩上　敦郎中学校・高等学校副校長、松井浩樹中学校・高等学校宗教主任、西間木順榴ケ岡高等学校宗教主任（教研全国委員）、鈴木雅光中学校・高等学校宗教部副部長、髙アンナ中学校・高等学校教諭、菊池進太郎榴ケ岡高等学校教諭

〔運営協力〕中学校・高等学校事務室 色川耕市事務長補佐、後藤あかね、阿部億人

12. 第64回学校代表者協議会

日　時　　2022年11月４日（金）～５日（土）10時00分～15時20分

場　所　　大阪女学院

参加者　　大西晴樹院長・学長

13. 教職員志願者ガイダンス

日　時　　事前収録の講話動画を申込者に限定して公開

2023年３月中の公開予定

講師：原田浩司宗教部長

14. 東北・北海道地区協議会常置委員会

日　時　　2023年３月24日（金）14時00分～16時00分

場　所　　Zoom によるオンライン開催

参加者　　原田善教理事長、大西晴樹院長・学長、原田浩司宗教部長、西間木順榴ケ

（予定）　　岡高等学校宗教主任、工藤彩絵子（事務局）

2022年度

東北学院宗教センター　宗教活動報告

2022年度　東北学院宗教センター　宗教活動報告

東北学院宗教センター主任　原田　浩司

2021年度をもって野村信大学宗教部長・宗教センター主任が定年退職され、22年度から原田浩司教授がその後任となり、野村先生が宗教センターチャプレンに就任し、新たな体制で22年度の活動が始まりました。宗教センターは、幼稚園から大学まで、東北学院の各設置校との対面での祈祷会を通して交流を重ね、設置校を結ぶ「いのち ひかり あい」、そして東北学院の建学の精神にかかわる記事を掲載する「水曜通信」を刊行し続けることができました。また法人本部がある土樋では仙台市民向けに月に一度、水曜礼拝を継続し、東北学院のスクールモットー「LIFE LIGHT LOVE」から「いのち」を特集した説教集を刊行しました。22年度は5月にランカスター神学校との国際シンポジウムをオンラインで開催し、年度末には米国に代表者を派遣し、現地調査を行うなど、本学に縁の深いランカスター神学校との交流が積極的に行われました。

第57回水曜公開礼拝【第1部　礼拝】
本学文学部教授・大学宗教主任
木村 純二
(2022年11月16日)

第57回水曜公開礼拝【第2部 音楽による賛美】
演奏：椎名 雄一郎
（本学文学部教授　椎名 雄一郎）

クリスマスイルミネーション点灯式
日時：2022年11月28日（月）

宗教センター主催講演会
「ルオーと山下りん」
日時：2023年3月1日（水）

1．宗教センター構成員

所　　長　　大西晴樹（院長・学長）
センター主任（兼任）　原田浩司（大学宗教部長）
所 員 1　　原田浩司（大学宗教部長）
所 員 2　　松井浩樹（中学・高校宗教主任）
所 員 3　　西間木順（榴ケ岡高校宗教主任）
所 員 4　　島内久美子（幼稚園園長）
所 員 5　　木村純二（大学宗教主任）
所 員 6　　田島　卓（大学宗教主任）
チャプレン　　野村　信
主　　事　　未定
理事長特別補佐（宗教センター担当）鐸木　道剛
嘱託職員　　大久保知美

2．宗教センター実務委員会（打合せ会：祈祷と報告／予定）

日　時：毎週月曜日　38回開催（3/6現在）
場　所：宗教センター事務室別室（７号館３階）

3．2022年度宗教センター委員会

	日　時	場　所	議　題
第１回	2022年7月12日(火) 15:30～16:35	本館会議室 (Zoom 併用)	「東北学院の基本方針2022 礼拝及びキリスト教活動について」他
第２回	2022年11月15日(火) 14:30～15:52	本館会議室 (Zoom 併用)	「東北学院キリスト教フェローシップ（TGCF）の立ち上げの件」他
第３回	2023年2月13日(月) 14:00～14:53	宗教センター事務室別室 (Zoom 併用)	「2022年度活動報告と2023年度のスタッフ体制と活動予定」他

4．2022年度宗教センター祈祷会（各校訪問・懇談）

①第１回

日　時	場　所	出席者
2022年６月７日（火）15:30～16:30	東北学院幼稚園	13名
2022年６月14日（火）14:20～15:10	東北学院中学校・高等学校	10名
2022年７月５日（火）16:00～17:00	東北学院榴ケ岡高等学校	9名

②第２回

日　時	場　所	出席者
2022年10月19日（水）14:30～15:30	東北学院中学校・高等学校	8名
2022年11月29日（火）15:00～16:00	東北学院榴ケ岡高等学校	9名
中止	東北学院幼稚園	

５．東北学院宗教センター出版物

タイトル	内容	発行日	部数
宗教センター便り「いのちひかりあい」第４号	各学校の宗教活動の報告など	９月５日	5,000部
宗教活動報告書 第３号	2022年東北学院宗教活動報告法人、大学、宗教センター、各設置校宗教活動報告など	11月11日	700冊
宗教センター便り「いのちひかりあい」第５号	クリスマス特集号	12月９日	5,000部
東北学院礼拝説教集 第３号	各学校での礼拝説教掲載	３月31日	6,000冊
キリスト教活動のしおり	各学校のキリスト教活動案内	４月１日	6,000冊
水曜通信 第16号～第25号	巻頭言、礼拝要旨、その他	4月～2月（7、8、3月休刊）	各1,000部

６．水曜公開礼拝

《オンライン礼拝詳細》

■配信総回数　６回［4月～10月（＊8月は除く）、原則毎月第３水曜日公開］

■担当者一覧及び回数

野村信宗教センターチャプレン　２回
原田浩司宗教センター主任　１回
大門耕平大学宗教主任　１回
鐸木道剛理事長特別補佐　１回
藤野雄大大学宗教主任　１回

《対面礼拝詳細》

■実施回数　４回［11月～２月、毎月第３水曜日開催］

■担当者一覧（各1回）

木村純二大学宗教主任
松本宣郎前理事長・院長
大西晴樹院長・学長
鐸木道剛理事長特別補佐

7．教職員聖歌隊の活動

実施日：［毎月第４水曜日］

（対面開催）４月27日、５月25日、６月22日、７月27日、９月28日、10月12日、10月26日、11月30日、２月22日

出席平均人数：約10人

主な練習曲目：「Erhöre mich, wenn ich dich rufe 」（SWV 289）ハインリヒ・シュッツ

宗教音楽の夕べでの合唱実施：10月29日（土）　ラーハウザー記念礼拝堂にて

8．東北学院「クリスマスイルミネーション点灯式」の実施

日　時：2022年11月28日（月）

場　所：［礼拝］ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

［カウントダウン］本館前中庭

9．ランカスター神学校国際セミナーの開催

日　時：2022年５月10日（火）～11日（水）

場　所：ホーイ記念館１Ｆコラトリエ広場（日米 Zoom 開催）

内　容：ランカスター神学校の学生と東北学院や他大学とのつながり、日本の神の概念文化等に関して研修会を開催

担当者：野村信、鐸木道剛、藤野雄大、栗原健（宮城学院女子大学）、サム･マーチー（尚絅学院大学）他

ランカスター側参加者：学生13名、教員２名、コーディネーター１名

10. 宗教センター主催講演会の開催

日　時：2023年３月１日（水）13時30分～16時00分

場　所：ホーイ記念館ホール

内　容：ルオーと山下りんーキリスト教美術の現在

講　師：鐸木道剛（理事長特別補佐）、後藤新治（西南学院大学名誉教授）

11. ランカスター神学校等に関する海外調査活動

内　容：ランカスター神学校、及びモラビア神学校の現状確認と資料の調査

12. 宗教センター活動に関する国内調査（３月に実施）

内　容：関東地方のキリスト教主義大学の宗教活動の運営に関する訪問と資料の収集

13. 東日本大震災12年追悼祈祷会

※2023年３月11日は土曜日のため、各自黙祷とする

14. ホームページの開設と更新

活動案内と出版物の掲載など適宜掲載

ランカスター神学校他への訪問調査報告

目　的：「ランカスター神学校との交流継続と推進及びイーデン神学校への資料移管の状況調査」
訪問先：ランカスター神学校、モラヴィア大学・神学校、イーデン神学校
訪問者：鐸木道剛［理事長特別補佐（宗教センター担当）］
　　日野　哲［東北学院史資料センター客員研究員］
日　程：2023年3月5日（日）～15日（水）

詳細日程は、以下の通り：
3 / 5（日）仙台から羽田へ
3 / 6（月）羽田発、ニューヨーク経由　ランカスター着
3 / 7（火）ランカスター神学校、ERHS（福音・改革派歴史協会）訪問、調査
3 / 8（水）ランカスター神学校、ERHS（福音・改革派歴史協会）訪問、調査
3 / 9（木）モラヴィア大学・同神学校訪問
3 /10（金）ランカスター神学校訪問後、フィラデルフィアに移動
3 /11（土）フィラデルフィア発　セントルイス着（イーデン神学校着）
3 /12（日）Peace UCC 礼拝出席（イーデン神学校礼拝堂にて）、歓迎夕食会
3 /13（月）イーデン神学校、ERHS（福音・改革派歴史協会）訪問、調査
3 /14（火）セントルイス発、シカゴ経由　羽田へ
3 /15（水）羽田着、羽田から仙台帰着

目的は、補って記すと、第一に「ランカスター神学校との交流の継続と推進を図ること、並びに新たにモラヴィア大学・神学校とイーデン神学校との交流の可能性を探ること」で、鐸木の担当、第二に「ランカ スター神学校内の ERHS（福音・改革派歴史協会 Evangelical & Reformed Historical Society）の資料が数年以内にイーデン神学校内の ERHS に移管（合同）されるとの情報を基に、その状況を確認すること」で、日野の担当であった。

第一の目的についての具体的な確認事項は次のとおりである。モラヴィア神学校との統合の状況を見ると、従来のランカスター神学校は変わらず健在であり、今後も、コロナ以前の計画通りに交流を進めることが可能であることを確認した。

すなわち、2023年度は、昨年2022年度に引き続きズームによる双方の学生、それぞれ5, 6名程度の参加によって、英語によるセミナーを開催すること、また東北学院の建学の精神の確認のために、ランカスター神学校から2名の研究者を招聘して、19世紀半ばにランカスター神学校を中心に議論されたマーサーズバーグ神学についての研究会を2024年2月初旬に開催すること

が確認された。また2020年度に予定されていたランカスター神学校の学生の研修を受け入れることは、2025年度に実施することになった。

ランカスター神学校がモラヴィア神学校と統合することについては、モラヴィア兄弟団は、シュペーナー（Philipp Jakob Spener 1635-1705）やフランケ（August Hermann Francke 1663-1727）の17世紀ドイツの敬虔主義の流れをくむツィンツェンドルフ伯（Nikolaus Ludwig, Reichsgraf von Zinzendorf 1700-1760）の教派で、アメリカ伝道の過程においてメソジストの成立を促した教派であり、東北学院とその源泉であるランカスター神学校のドイツ改革派の伝統主義を補って原点に戻ろうとする運動であって、基本的に敬虔派に共通して、教義よりも、教義を成立させる感情を重視する教派であると言える。

例えば、伝統的キリスト教では、アウグスティヌスとダマスカスのヨハネ、そしてルターに共通して、つまり中世は西方も東方も、また近代も問わず、芸術は重要ではあるが神と比べると無である（つまりプロスキネシス：相対的の礼拝の対象）との共通の認識がある。しかし感情重視のモラヴィア神学校では音楽の位置づけが改革派のランカスターよりも高い。以上のアウグスティヌスとルターの言明に対して、モラヴィア派は、確かに神学上はそうであるが、地上の音楽は天使の音楽と交わると考えるという。

また福音派のイーデン神学校では、20世紀初頭の校長であったサミュエル・プレス（Samuel D. Press）が「愛だけが真の新しい生活を生み出す力がある（Love is the only power that does produce a new and true life）」と記し、また「彼は信仰をどんな形でも概念化し公式化することを拒否した（he resisted every effort to categorize and formulate that faith in any firm way）」[1]との文面に出会って、これこそ愛と信仰（教義）の問題、つまり福音派と伝統的改革派の議論ではないかと向けたところ、前大統領トランプの登場ゆえであろうか、それは政治的な問題であるとして議論を拒否された。アメリカでは福音派と伝統的な改革派との間では妥協の余地のないところまで対立が深まっているのではないかと思わせた。日曜日の10時から、イーデン神学校の礼拝堂を借りて礼拝を行っていた人たちは、そういう政治的対立を避け、トランプ的保守に対して政治的に行動するいわゆる「福音派」と混同されることを嫌って「平和キリスト連合教会（Peace United Church of Christ）」と名称を変えたグループであった。

またドイツ改革派の伝道局長で1906年に東北学院にも訪れているジェイムズ・グッド（James I. Good 1850-1924）[2]の蔵書を、福音派のイーデン神学校の図書館が所蔵していることについて、グッドはランカスターのマーサーズバーグ神学を嫌って

---

[1] Walter Brueggemann, Ethos and Ecumenism, An Evangelical Blend, A History of Eden Theological Seminary 1925-1975, Eden publishing House, 1975, p. 3

[2] 日野哲「Our Trip to Japan and China（2）－外国伝道局からの来訪者－」『東北学院史資料センター年報』vol. 8（2023）、48-55頁

分離（schism）したのだとの意見も聞くなど、福音派にはランカスターの改革派の神学であるマーサーズバーグ神学への抵抗がかなりあることも確認した。しかし日本では政治上の問題にはなっていないし、なる可能性も皆無であるので、これは冷静に議論できるトピックであり、斯界に貢献できる分野でもあると認識した。

また今回の改革派のランカスター神学校と敬虔派のモラヴィア神学校との統合は、イーデン神学校関係者には、その統合は残念なことだと否定的に考えている向きもあったが、むしろ改革派のランカスター神学校が、そしてまた東北学院が福音派への射程を拡げるものとも予想できるのであり、今後の交流の幅を拡げることが可能であるとの見通しが得られた。

なお2022年5月に実施したzoomによる国際セミナーの記録（proceedings）は、ランカスター神学校をはじめ、モラヴィア神学校、イーデン神学校の関係者に計21部を配布した。

第二の目的については、今回の出張前に本院が把握していた情報は、「ランカスター神学校は数年前に同じペンシルヴェニア州にあるモラヴィア大学・神学校に併合され、そのことからランカスター神学校図書館内にあるERHS（福音・改革派歴史協会）は、数年以内にミズーリ州のセントルイスにあるイーデン神学校内のERHSに移管（合同）される」というものであった。

ERHSは、ランカスター神学校に保存されている「改革派」の資料と、イーデン神学校に保存されている「福音派」の資料の二つを統括する機関である。これまで本院の資料調査は、創立に関わるドイツ改革派（Reformed Church in the U.S.）の資料を保存するランカスターでのみ行われていたが、福音派（Evangelical Synod of North America）との教派合同（1934年）により、イーデン神学校を卒業して来日した宣教師に関する資料も調査する必要性は以前から指摘されていた。その代表は、ホーイ伝とシュネーダー伝を執筆した故ウィリアム・C・メンセンディク教授である。今回のイーデン神学校訪問に際しては、同神学校の卒業生でもあるご子息のジェフリー・メンセンディク師に仲介の労をお願いした。特に記して謝意を表したい。

イーデン神学校への資料の移管（合同）に関して、現地での聞き取り及び関係資料から以下のことが判明した。ERHS理事会が、ランカスターとイーデンの両神学校の資料を合同するための検討組織を正式に立ち上げたのは、2021年5月であった。同じ年の4月にはランカスター神学校とモラヴィア大学とが統合に向けた合同委員会を設立しているが、このことについてERHSのPresident & CEOのスコット氏（Scott Meyer-Kukan）は、「理事会は既に2020年11月から合同に向けた検討を始めており、これはモラヴィア大学とランカスター神学校が統合するためではなく、あくまで当協会の資料を保存し拡大する物理的なスペースが限界に達していることが理由である」と明言する。そして、まだ検討を始めた段階ではあるが、「ランカスター神学校ではこれ以上のスペースを確保することは難しい」と述べている（The Messenger, July/

August, 2021)。

その後、ERHS 理事会は2022年7月に幾つかの選択肢の中からイーデン神学校に移管することを決定した。その理由として、「歴史的な意義（福音派と改革派の両資料が一か所に集約されること)、運営の経費（イーデン神学校が ERHS の運営諸経費の捻出に前向きであること)、地理的な位置（イーデン神学校は国土の中央に位置しており、セントルイスには他教派のアーカイヴを含む主要な歴史研究機関があること)」などを挙げている（The Messenger, September, 2022)。

なお、我々の今回の訪問が何らかの契機になったとは必ずしも言えないが、ランカスター滞在中の3月9日付でランカスター神学校は “Lancaster Seminary, Evangelical & Reformed Historical Society Finalize Lease” と題して、次のようなニュースを公報した（Lancaster Theological Seminary News, March 9, 2023)。

「ランカスター神学校と ERHS は、2025年1月までの3年間、現在の事務室とアーカイヴを無償で神学校キャンパス内に置くことに合意する。この協定は神学校と ERHS との長年の関係を公式に延長するものであり、3年後にさらに一年間延長する選択も認める。」

この協定により、ランカスターの ERHS 資料は少なくとも今後3年は現在のランカスター神学校内に置かれることになる。我々はその後、3月12日にイーデン神学校内の学長公邸で行われた歓迎夕食会で神学校のクラウス学長（Deborah Krause）と ERHS President のスコット氏とお会いするが、両者の移転に向けた交渉が友好的に続けられているように思われた。しかし、ランカスター ERHS の資料を管理し、その実情を熟知しているアリソン氏（Alison Mallin）は、次のようにもらしてくれた。

「これらの資料をイーデンに移すには多額の費用を要する。現実的な選択は、近くのＥ＆Ｒの教会の使われなくなった会堂またはスペースを確保して、そこに移転することではないか。少なくとも、自分はイーデンには行かないで辞めたいと考えている。」

実は、この選択肢は2022年7月の ERHS 理事会の検討にも含まれており、我々が滞米中に幾度か耳にした「大教会が会堂の維持管理に苦慮して売却せざるを得ない状況が頻発している」という情報とも符合し、あり得ない選択ではないと思われた。

以上が、ERHS の資料移管に関する現在の状況であるが、合わせて両神学校で短時間ではあったが資料の調査を行ったので報告する。

ランカスター神学校の ERHS では、2018年と2019年にも調査を行い、本院の創立に関わる多数の資料を収集したが、今回はアリソン氏の好意により、これらの資料が整理され収められている60個の Box とその中のファイル（一箱につき約10～30のファイルに分類）のリストを入手した。また、映像資料として新たに日本関係のフィルム数本を発見した。

初めて訪れたイーデン神学校の ERHS では、同校の卒業生であるメンセンディク元教授の資料をはじめ、改革派教会の外国伝道局長として活躍したグッド博士（James I. Good）の膨大なコレクションの調査を行っ

た。しかし、改革派の伝道局長であったグッドのコレクションがどのような経緯で福音派のイーデン神学校に置かれているのか、また同じく改革派から本学に派遣されたシップル宣教師（Carl S. Sipple 1904-1978）[3]が、退任後なぜ福音派のイーデン神学校の資料整理を行ったのかについては、まだ明確になっていない。

[3] シップルは、1930年から1967年まで（戦時中は一時帰国）東北学院教授として在任し、戦後は理事としても貢献した宣教師である。一家が戦後住んだ土樋キャンパス内の宣教師館（現在のデフォレスト館）は「シップル館」という名称で長く親しまれた。
退任後はイーデン神学校に保存されている宣教師関係の資料を整理したと言われているが、1982年に百年史の資料調査のためにイーデン神学校を訪れた出村彰（本学名誉教授）宛の手紙には、次のように書かれている。
「日本宣教が我々福音派ではなく改革派の支援によって行われたことは明確であり、一次資料はランカスターのアーカイヴにすべて保存されています。一方で、カール・シップルがイーデンのアーカイヴにある宣教師関係の資料を入念に整理してくれたので、彼が成し遂げた仕事をご覧になることも有益だと思います。」（イーデン神学校教授のザック（Lowell H. Zuck）より、1982年3月5日付）

建築が語る東北学院の歴史

東北学院大学工学部　環境建設工学科
准教授　崎山　俊雄

明治以降、日本にはキリスト教の文化が浸透し、教会堂が建てられるようになります。とりわけ宮城県は東北伝道の中心地でしたから、全国的に見ても会堂建築が数多く建てられました。江戸時代の社寺が都市の外縁に建てられたのに比べ、これらは人目に付きやすい大通り沿いに建設され、都市の文化に新風をもたらしました。

土樋キャンパスには、中央広場の周囲に３棟１基の歴史的な建造物が残っています（本館・礼拝堂・大学院棟・正門／いずれも登録有形文化財）。大正15年に描かれたマスタープラン（将来計画）を見ますと、３棟がコの字型を成して広場を囲うこのような形式が、更に左右に連続する計画だったことが分かります。現在のキャンパスの地下には、そうした将来の拡張に備えるために設けられた設備配管延長用のトンネルの痕跡も見られます。

礼拝堂には幾何学の組み合わせから成る宗教的な図象が見られます。例えば長方形の頂部に円を合成した図は、中世ゴシック以来の形です。内部には４つの円を組み合わせた図象が多用されていますが、４はキリスト教において重要な数の一つです。

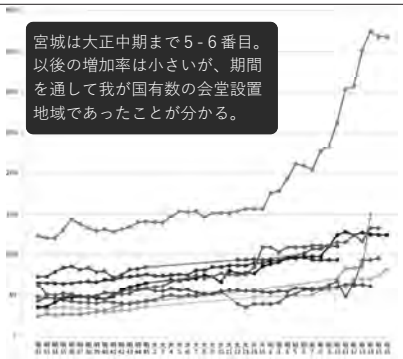
東北学院に現存する建築物には高い歴史的価値が認められています。150周年へと歴史を紡ぐ東北学院を「建築」という面から捉え、その意義と価値を正しく理解しながら次世代へと継承することはとても大切なことです。

※本稿は2023年3月14日に行われたTG十五日会での講演内容となります。崎山先生は3年間にわたり「水曜通信」に本学の建築について記事を連載してくださり、その成果も本稿には反映されています。ご本人の了承を得て、崎山先生の講演のスライドと概要を本報告書に掲載します。

左下のみ﨑山撮影。他は国立国会図書館デジタルコレクション蔵『日本基督教会年鑑』昭和6年版(同事務所編, 昭和6年10月)掲載図版を一部トリミング)

会堂数の推移（主要9道府県）

本表は『大日本帝国内務省統計報告』(各年版)、各廳府縣『統計書』(同)、および『日本基督教年鑑』(同)を基に﨑山が作成した。



本表は『大日本帝国内務省統計報告』(各年版)、各廳府縣『統計書』(同)、および『日本基督教年鑑』(同)を基に﨑山が作成した。

宮城県郡市別

郡市名	昭5	昭6	昭7	昭8	昭9	昭10	昭11	昭12	昭13	昭14
仙台市	20	19	19	19	19	19	21	20	20	20
石巻市	-	-	-	4	4	4	4	4	4	4
刈田郡	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2
柴田郡	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4
伊具郡	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
亘理郡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
名取郡	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
宮城郡	3	3	3	3	3	5	5	5	5	5
黒川郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
加美郡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
志田郡	3	3	3	3	4	4	4	4	5	5
玉造郡	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
遠田郡	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3
栗原郡	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5
登米郡	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1
桃生郡	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
牡鹿郡	4	4	4	-	-	-	-	-	-	-
本吉郡	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3
総計	59	58	58	57	59	60	63	62	63	61

本表は、宮城県公文書館蔵『内務省令第四十一號 會堂説教場臺帳』（請求記号：昭和　年度　　）に基づき筆者が作成した。

仙台市中における会堂・講義所・基督教学校の立地

赤：一等道路、青：二等道路

出典：東北学院大学大学院工学研究科　　年度修士論文『仙台におけるミッション・スクールの立地に関する都市史的研究』

旧仙台神学校校舎（1891/明治24年）
設計：P.サルダ or R.ゼール か

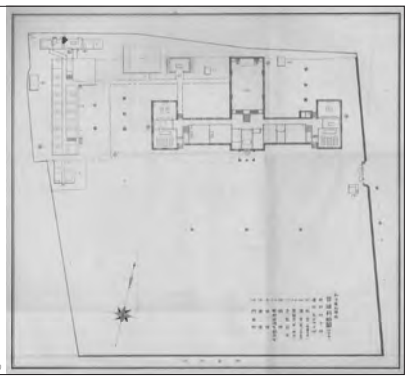
東北学院史資料センター蔵

『東北学院一覧』(明治44年版)より

東北学院普通科校舎（1905/明治38年）
設計：G.デ・ラランデ

東北学院史資料センター蔵

東北学院史資料センター蔵



『東北学院一覧』
（明治44年版）より

東北学院史資料センター蔵

保管：東北学院中学校・高等学校
撮影：嶋山

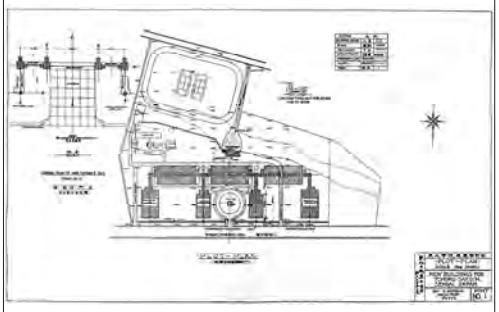
東北学院中学部校舎（1922/大正11年）
被災調査B.ウォード→設計W.ウィルソン

東北学院史資料センター蔵

東北学院歴史的建造物ガイド（東北学院史資料センター編, 2022年版）より抜粋

撮影：上羽（2017年）

東北学院専門部校舎（1926-/大正15年-）



東北学院史資料センター蔵

東北学院専門部校舎（1926-/大正15年-）

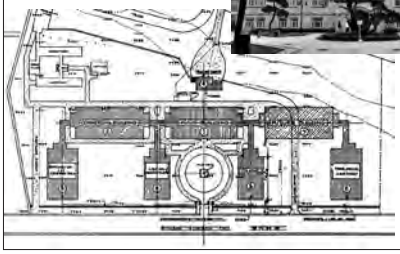
今度時報に掲載されたカットは、東北学院専門部が是から発展しやうとする将来の設計図であります。将来どんな建物が必要になるかを熟慮しまして、それから各建物並に運動場の位置を定め、綜合的設計を作るやう技師に云いつけました。

建物は皆建築の様式や構造の材料を劃一にする積りです。それは理想的な一群の建物となり、其處で将来多くの学生が首尾よく且つ幸福に勉強することになるだらうと思ひます。（後略）

『東北学院時報』より

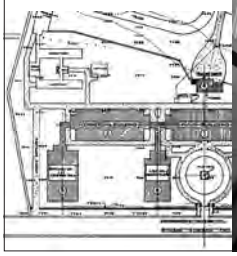
基本構想：D.B.シュネーダー
設計：J.H.モーガン

崎山撮影



東北学院史資料センター蔵

基本構想：D.B.シュネーダー
設計：J.H.モーガン



崎山撮影

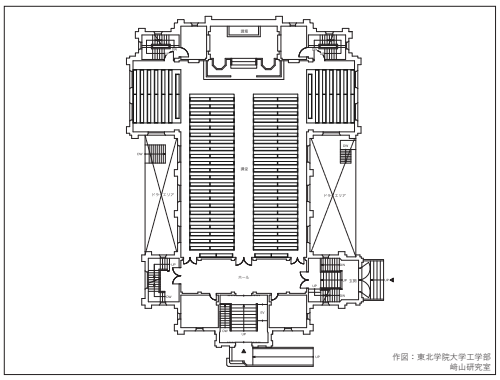
崎山撮影

東北学院史資料センター蔵

崎山撮影

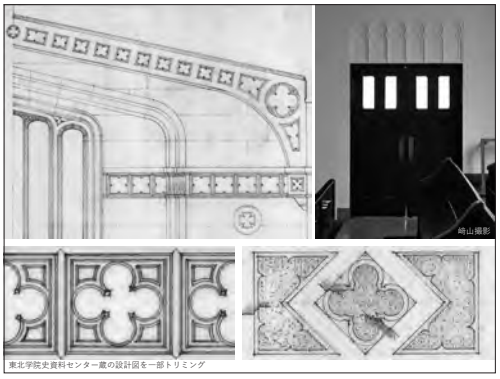
崎山撮影

崎山撮影



作図：東北学院大学工学部
崎山研究室

崎山撮影



崎山撮影

東北学院史資料センター蔵の設計図を一部トリミング

東北学院史資料センター蔵

崎山撮影

昭和戦前の様子（ランカスター神学校蔵）

昭和40年代後半か（東北学院史資料センター蔵）

修復後の正門（『東北学院100周年記念絵葉書』より）

2022年度

東北学院大学　宗教活動報告

2022年度　東北学院大学　宗教活動報告

東北学院大学　宗教部長　原田　浩司

新型コロナ感染症の流行が３年目を迎え、行動規制も徐々に緩和され、大学の宗教活動も感染状況に応じて段階的に規制を緩和しました。感染の流行期間中は、週に一度月曜日のみで実施してきた大学礼拝は６月より月・水・金曜日、週に三回に拡大し、後期の９月からコロナ前と同じ回数に戻し、毎日実施しました。コロナ禍ではリモートが中心だったキリスト教活動も段階的に対面で実施できるようになりました。12月の大学クリスマス礼拝も３年ぶりに対面での開催となりました。このように、22年度は感染状況に応じて慎重かつ柔軟にキリスト教活動を回復させていきました。

他方で、今後の課題もはっきりしてきました。大学礼拝と活動の機会をコロナ前に戻したものの、宗教部の諸活動に参加する学生数はコロナ前の状況に戻っていません。コロナ感染症が完全に終息し切っていませんが、23年度からの五橋キャンパス開業に合わせ、宗教部の取り組みへのさらなる工夫と実践が求められます。

2022年度 第47回サマー・カレッジ
日時：2022年８月４日（木）

2022年度東北学院大学教職員修養会
【オンライン配信】
日時：2022年８月29日（月）

秋季宗教教育強調週間特別伝道礼拝【オンライン開催】
講師：三浦綾子記念文学館特別研究員　森下辰衛氏
説教題：「“生まれてくれてありがとう” の奇蹟
～三浦綾子を愛した男～」
配信日：2022年10月13日（木）～10月31日（月）

大学クリスマス
【対面開催、オンデマンド配信併用】
対面開催日時：2022年12月15日（木）
（土樋キャンパス）
配信期間：12月15日（木）～12月31日（土）

1．教員組織

宗教部長	原田浩司
書　　記	藤野雄大
土樋担当	大門耕平、田島卓、出村みや子
多賀城担当	木村純二、原田浩司
泉 担 当	椎名雄一郎、藤野雄大、渡邊有美
総合人文学科長	川島堅二
キリスト教文化研究所所長	出村みや子
大学オルガニスト	今井奈緒子

2．礼拝オルガニスト（五十音順、敬称略）

阿部和子、今高和枝、大泉真理、小野なおみ、加藤晶子、亀井睦子、京極扶美恵、菅原淑子、長谷部真理子、山司恵莉子、渡辺真理

3．大学礼拝

＜オンライン礼拝詳細＞

■配信総回数　10週（４月11日～６月25日、毎週土曜日公開）

■担当者一覧及び担当回数

原田浩司宗教部長	２回
藤野雄大大学宗教主任	２回
木村純二大学宗教主任	２回
椎名雄一郎大学宗教主任	１回
田島卓大学宗教主任	１回
出村みや子大学宗教主任	１回
川島堅二総合人文学科長	１回

＜対面礼拝詳細＞

■実施内容（計369回）

土樋キャンパス	全123回
多賀城キャンパス	全123回
泉キャンパス	全123回

※４月・５月は毎週月曜日開催、６月より月曜・水曜・金曜日開催。
　後期９月より、毎週月曜から土曜までの授業実施日に開催。

■担当者内訳

学内関係者	259回
学外（牧師）担当者	110回

■参加者数

【前期期間】

土樋キャンパス　805名出席
多賀城キャンパス　1,219名出席
泉キャンパス　2,158名出席

【後期期間】

土樋キャンパス　2,045名出席
多賀城キャンパス　2,941名出席
泉キャンパス　4,853名出席

【合計】

土樋キャンパス　2,850名出席
多賀城キャンパス　4,160名出席
泉キャンパス　7,011名出席
合計　14,021名出席

4．聖書研究会

土樋キャンパス	川島堅二	バイブルトーク
	田島　卓	旧約聖書に親しむ
	原田浩司	TG のキリスト教
	大門耕平	聖書あれこれ検索
	渡辺有美	キリスト教と美術
	出村みや子	アウグスティヌスに学ぶ
多賀城キャンパス	原田浩司	そうだったのか聖書
	木村純二	聖書の学びと祈りの時間
泉キャンパス	木村純二	聖書の学びと祈りの時間
	椎名雄一郎	キリスト教音楽に親しむ
	藤野雄大	東北学院とキリスト教

5．春季宗教教育強調週間特別伝道礼拝【中止】

6．秋季宗教教育強調週間特別伝道礼拝【オンライン開催】

講　師：三浦綾子記念文学館特別研究員　森下辰衛氏
説教題：「“ 生まれてくれてありがとう ” の奇蹟～三浦綾子を愛した男～」
撮影日：2022年９月30日（金）11時00分
場　所：土樋キャンパスラーハウザー記念東北学院礼拝堂
配信日：2022年10月13日（木）12時00分～10月31日（月）12時00分

7．第33回泉キャンパスクリスマス

日　時：2022年12月２日（金）18時30分～20時00分

場　所：東北学院大学泉キャンパス礼拝堂

参加者：約600名

第一部　礼拝

説 教 者　八木山聖書バプテスト教会　岩佐光牧師（2014年３月言語文化学科卒）

説 教 題　「飼い葉桶にあるしるし」

司 会 者　原田浩司宗教部長

奏 楽 者　今井奈緒子大学オルガニスト

第二部　クリスマスコンサート

吹 奏 楽　東北学院大学シンフォニックウインドアンサンブル、教職員アンサンブル

オルガン　今井奈緒子大学オルガニスト

独　　唱　中川　郁太郎（バリトン）

合　　唱　東北学院大学宗教部聖歌隊

8．大学クリスマス

2022年度においては、土樋キャンパスにて３年ぶりの対面開催となった。しかし、多賀城キャンパスでは暖房機器の故障、泉キャンパスではオルガンの移設があったために、オンデマンドでの開催となった。

【対面開催詳細】

第一部　礼拝

日　時：2022年12月15日（木）16時00分～17時00分

司式・説教　原田浩司宗教部長

奏　　楽　今井奈緒子大学オルガニスト

説 教 題　「さぁ、ベツレヘムへ」

第二部　メサイア（一部抜粋）

オルガン　今井奈緒子大学オルガニスト

独　　唱　鈴木美紀子氏（ソプラノ）、谷地畝晶子氏（アルト）

合　　唱　東北学院大学宗教部聖歌隊

【オンデマンド配信詳細】

配信期間　2022年12月15日（木）～12月31日（土）

第一部　礼拝

司式・説教　原田浩司宗教部長

奏　　楽　今井奈緒子大学オルガニスト

説 教 題　「さぁ、ベツレヘムへ」

第二部　メサイア（一部抜粋）

オルガン　　今井奈緒子大学オルガニスト

独　　唱　　高橋絵里氏（ソプラノ）、谷地畝晶子氏（アルト）

合　　唱　　東北学院大学宗教部聖歌隊

9．第26回スプリング・カレッジ

日　時：2022年４月16日（土）14時40分～16時40分

場　所：泉キャンパス２号館２階228教室

参加数：33名（内、学生22名、教員9名、職員2名）

10. 第47回サマー・カレッジ

日　時：2022年８月４日（木）10時00分～15時30分

場　所：ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

土樋キャンパスホーイ記念館２階H201教室

主　題：「クリスチャンの若者は、いま」

講　師：KGK 東北地区主事　東すみれ氏

Kinshuko United 所属　木村楓氏

参加数：28名（内、学生17名、教員９名、職員２名）

11. 第66回教職員修養会

日　時：2022年８月29日（月）13時00分～15時30分

場　所：YouTube ライブ配信（土樋キャンパス８号館５階押川記念ホールより実施）

主　題：「聖書に聴く」

第１回講演

講　師：藤野雄大大学宗教主任

講演題：「ＴＧ草創期を支えた宣教師たちの教育観」

第２回講演

講　師：河西晃祐東北学院史資料センター長

講演題：「「地の塩」という生き方―聾唖教育に関わった卒業生たち―」

第３回講演

講　師：小椋汐里仙台市立台原中学校教諭

講演題：「キャンパスライフを振り返り、今思うこと」

※当日病欠のため、原田浩司宗教部長による代読にて実施。

12. キリスト者等推薦入学生との懇談会【中止】

13. 礼拝奉仕者懇談会（事務職員）【中止】

14. 礼拝オルガニスト懇談会

日　時：2023年２月28日（火）10時00分～12時00分
場　所：土樋キャンパス８号館第３・第４会議室
　　五橋キャンパス押川記念館ホール
参　加：礼拝オルガニスト、原田善教理事長、大西晴樹学長、宗教部教員他

15. 礼拝司会者（牧師）懇談会

日　　時：2023年２月28日（火）14時00分～16時00分
場　　所：土樋キャンパスホーイ記念館ホール
　　五橋キャンパス押川記念館ホール
参　　加：礼拝担当外部牧師、原田善教理事長、宗教部教員他

16. 宗教部会（Zoom 会議）

開催日：2022年４月28日（木）、５月26日（木）、６月23日（木）、７月28日（木）、
　　９月29日（木）、10月27日（木）、11月24日（木）
　　2023年１月19日（木）、２月20日（月）計10回

17. 大学宗教主任会

開催日：2022年９月16日（金）、2023年２月９日（木）計２回

18. 宗教部予算会議

日　時：2022年11月21日（月）14時40分～16時10分
議　題：「2023年度大学宗教部当初予算について」
場　所：Zoom 会議
参　加：原田浩司宗教部長、大学宗教主任、各キャンパス事務担当者

19. 宗教部自己点検評価会

（1）2022年度第１回（メール審議）
日　時：2022年９月22日（木）～９月29日（木）
主　題：「2022年度（前期）宗教活動について」「2022年度（後期）宗教活動予定について」
（2）2022年度第２回
日　時：2023年２月20日（月）14時00分～15時00分
主　題：「2022年度宗教活動について」「2023年度宗教活動予定について」

20. 青山学院大学・東北学院大学合同チャプレン代表者会【中止】

21. 宗教部研修会

日　時：2022年７月21日（木）15時00分～17時00分

場　所：Zoom 会議（土樋キャンパス本館会議室より実施）

主　題：「東北学院大学の伝統と改革」

発題①　「学生がよりキリスト教に親しむために」　発題者　木村純二大学宗教主任

発題②　「ジェンダー論の視点から」　発題者　出村みや子大学宗教主任

22. 第27回キリスト者教員研修会

日　時：2023年１月26日（木）14時00分～16時00分

場　所：Zoom 会議（土樋キャンパス８号館第２会議室より実施）

発題①　「大学礼拝と説教の課題をめぐって」　発題者　原田浩司宗教部長

発題②　「統一協会問題　今何を考え、何をなすべきか」

発題者　川島堅二総合人文学科長

23. 大学宗教委員会

日　時：2023年３月６日（月）15時00分～16時00分

場　所：土樋キャンパス８号館第２会議室

24. 学長招待卒業生懇談会【開催予定】

日　時：2023年３月中旬

場　所：土樋キャンパス会議室

25.『チャペルニュース』

入学・進級号（150号）

26. 卒業記念礼拝

日　時：2023年３月23日（木）11時00分

説教者：原田浩司宗教部長

説教題：「LIFE　LIGHT　LOVE」

27. その他

礼拝堂管理、図書資料受入、調査回答

2022年度　第66回東北学院大学教職員修養会　報告

第66回東北学院大学教職員修養会プログラム

日　時：2022年８月29日（月）13時00分～15時30分
場　所：土樋キャンパス８号館５階　押川記念ホール（ハイブリッド開催）

【プログラム】

開　会　祈　祷　　宗教部長　原田　浩司

理 事 長 挨 拶　　理 事 長　原田　善教

第 1 回 講 演　　「TG 草創期を支えた宣教師たちの教育観」
　　大学宗教主任　藤野　雄大

第 2 回 講 演　　「「地の塩」という生き方―聾唖教育に関わった卒業生たち―」
　　東北学院史資料センター所長　河西　晃祐

第 3 回 講 演　　「キャンパスライフを振り返り、今思うこと」
　　台原中学校教諭　小椋　汐里

院長・学長挨拶　　院長・学長　大西　晴樹

閉　会　祈　祷　　大学宗教主任　田島　卓

第１回講演

「TG 草創期を支えた宣教師たちの教育観」

大学宗教主任　藤野　雄大

本講演では、東北学院草創期を支えた宣教師であるデイヴィット・B・シュネーダーとクリストファー・ノッスの教育観を史料に基づいて考察している。シュネーダーは、本学三校祖の一人であり、35年にわたって院長を務め、東北学院の礎を築いた。一方のクリストファー・ノッスは、東北学院でも教鞭を執っていたが、主に会津での伝道活動に従事し、「会津の使徒」と称された宣教師であった。シュネーダーは合衆国改革派教会の日本宣教における「教育」の、一方のノッスは「伝道」の柱石と目されていた。当時の宣教師団の中では、しばしば教育的働きと伝道的働きの間で対抗関係が生じていたとされることがあるが、実際には両者は互いを認め合っており、いわば合衆国改革派の「車の両輪」として補完的な関係にあった。また両者は、仙台の学校（東北学院）と会津の農村と、活動の場は異なっていたが、「人を育てた」という点では共通していた。両者の薫陶を受け、東北学院で学び、伝道者（牧師）として活躍したものが多数いた。当時の東北学院と東北のキリスト教会には、現代的な表現をすれば「地域連携型教育」とも呼べる協力関係が存在していたのである。

2022年度教職員修養会
「TG草創期を支えた宣教師たちの教育観」
2022年8月29日

大学宗教主任
藤野雄大

概要

・二人の宣教師：シュネーダーとノッス

・合衆国改革派教会における教育と伝道

・「人」を育てる＝宣教師の人格教育

・宣教師に見る「地域連携型教育」

来日宣教師リスト（一部）『百年史資料編』より

好対照の二人：シュネーダーとノッス

「アメリカの伝道局の本部では、東北伝道の問題についてはーすなわちキリスト教の教育については、東北学院のシュネーダー博士に、伝道はノッス博士に、この二人を（原文ママ）東北伝道のため、特別に重きをなしておられました。」

⇒二人は、合衆国改革派の教育と伝道という両輪を支えていた。

クレーラ著『ある種子は百倍に』216頁より

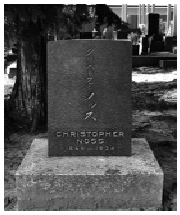
・シュネーダー略歴『東北学院資料室展示録』より

クリストファー・ノッス（1869-1934）

フランクリンアンドマーシャル（1888）、ランカスター神学校（1894）を卒業する。ベルリン大学に遊学し、ハルナックに師事する（1894-95）。同年に宣教師として来日する。東北学院（1895-1903）、ランカスター神学校（1904-1909）で教鞭を執る。会津若松に移住し、以後会津伝道に傾注する（1910-34）。日本語に堪能で、日本語の文法書も記した。「会津の使徒（Apostle of Aizu)」と称される。

＊写真は『ある種子は百倍に』より転載

シュネーダー一家とノッスの墓碑
（北山キリスト教墓地　藤野撮影）



合衆国改革派の教育と伝道

・しばしば対立的に捉えられてきた。
　⇒伝道局の予算配分を巡る衝突（直接伝道派と教育派）

・しかし元来は補い合うものであった。

⇒トーマス・アップル「ホーイ君、君が彼の地に渡ったならば、きっと大学と神学校を開設することになるだろうよ。」（メンセンディーク、『ウィリアム・ホーイ伝』16頁）

⇒ランカスター神学校では、元来、信仰における教育の働きを重視していた。この「教育的伝道方針」を、シュネーダーもノッスも共有していた。

Shneder, "The Work in Japan," *Fifty Years of Foreign Missions of the Reformed Church in the United States 1877-1927*,29-47, cited from 30-33.

「二種類の働き、教育的働きと伝道的働きは、手を携えており、また日本人と宣教師は、一方が、一方を支配するということはなく、密接な協力関係の中で働いていた。…当時の宣教師陣の中でJ.P.モール牧師とH.K.ミラー牧師の二名だけが伝道的働きに専念していた。しかし、学校の宣教師も日本人の教師もこの側面の働きに多大な力を注いでいた。教職員の中には、広範な伝道区域に責任を持ち、様々な地域に頻繁に伝道旅行をしていた者がいたのである。」

⇒初期には教育的働きに専念する宣教師は少なかった。多くは伝道的働きにも従事していた。しかし、この方法には限界もあった。

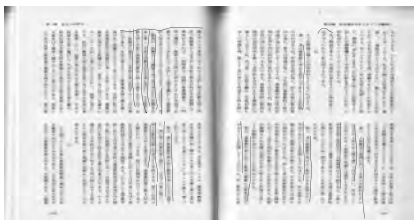
ノッスの苦悩　クレーラ著『ある種子は百倍に』25頁、28頁より

「私は伝道でも教育でも、どちらでも喜んでする。しかし両方一度にはできない。伝道事業から解放されて東北学院の専任教授になるか、東北学院から解放されて伝道事業に専心するか、私はそのどちらかを望む。」

「私は現在、教育者になるか、伝道者になるか、その二者択一に悩んでいるからです。私はどちらでもやれる用意があります。しかし両者を同時にやろうとする限り、そのどちらもふじゅうぶんでしょう。」

⇒教育と伝道の両立は現実には困難。どちらかに専念する必要性。しかし、両者は対立的に捉えられていたのではない。

シュネーダー「東北学院の使命を惟ふ」
『百年史資料編』364-5頁より



キリスト教的「熱誠」五つの形

- 「生徒のために」存在する学校
- 知識教育と人格教育の両立
- 「忠実の精神」による規律
- 「人格的薫化」
- 「協力の精神」

「東北を日本のスコットランドに」

Noss, *Tohoku, The Scotland of Japan* (1918)

・日本文化、宗教、日本人の特質、東北伝道、学校教育など長年、東北に住み続けたノッスの深い洞察が見られる。

・日本伝道の諸課題と意義を示すことで、日本への関心を高め、宣教師としての献身や諸教会の献金を呼び掛けている。

「東北学院の目的」の項より（Noss, *Tohoku, The Scotland of Japan* , 191）

「日本の古い諸道徳がキリスト教化され、それらに神への深い信仰とキリストへの忠誠の精神の冠が授けられること、そして、これらすべてが、他者への情熱、日本の新生と世界の救いによって光を放つことを願っています。加えて、（東北学院の）卒業生の多くが、東北に留まり、それぞれのコミュニティーの中で影響力や指導力を持つ人間になっていくように促すことを願っています。これを念頭に置いて、東北の経済的、社会的状況についてのコースを持てるようにカリキュラムの拡充が計画されています。そして、それが可能になれば、それによって、東北を、まさに『日本のスコットランド』にするという特別な責任感が発展するでしょう。」

⇒東北地域の発展に尽くす有為な人材の育成
⇒「東北を日本のスコットランドに」という押川のビジョンを共有

人格的薫化＝「人」を育てた二人

・シュネーダーは東北学院（都市）で、ノッスは会津（農村）で「人」を育てた。

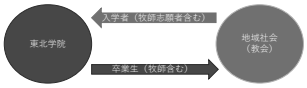
・興味深いのは両者の薫陶を受けた学生が多数存在したこと。
⇒会津出身で東北学院に進学し、牧師になった人々（井関磯美など）
⇒他県出身で東北学院進学後、会津（福島）の教会で活動した牧師
（丹忠、杉山元治郎など）
⇒草創期には東北学院と東北地域（の教会）の補完的関係が存在していた。
⇒その後、宣教師団と日本人牧師の対立や日本神学校（東京）との合同によって関係性が希薄になったか？

ノッスの薫陶を受けた牧師たち
＊写真はクレーラ著『ある種子は百倍に』より転載
＊赤下線は東北学院神学部卒業生。＊12名（ノッス含む）中9名

宣教師に見る地域連携型教育の萌芽

・東北地域からの入学者（牧師献身者）を受け入れる。

・社会（特に東北地域）に貢献する人材を養成



「TG Grand Vision 150」より

東北学院大学（以下、「本学」という）では、創設以来、地域に根差した大学を標榜し、地域と様々な連携を進め、地域とともに成長・発展してまいりました。本学の中長期計画である「TG Grand Vision 150」においても、社会貢献（地域連携）に関する目標及び計画を立て、取組を進めてきました。

⇒宣教師たちのヴィジョンを現代的な形で継承している。

主要参考文献

・Christopher Noss, *Tohoku, the Scotland of Japan*, Philadelphia, PA: Board of Foreign Missions Reformed Church in the United States, 1918

・Compiled by a Committee, *Fifty Years of Foreign Missions of the Reformed Church in the United States 1877-1927*, Philadelphia, PA: The Board of Foreign Missions

・A・H・クレーラ著、赤城英夫、佐伯晴郎訳『ある種子は百倍に―フロンテア宣教師　ノッス博士伝』教文館、1961年

・出村彰編『シュネーダー説教集』東北学院、1971年

・ウィリアム・メンセンディーク著、笹原昌・出村彰訳『シュネーダー博士の生涯―その人とその時代』東北学院、1976年

・『東北学院百年史（本編、資料編、各論編）』東北学院、1989年

・東北学院、『東北学院の歴史』河北新報出版センター、2017年

第２回講演

「「地の塩」という生き方－聾唖教育に関わった卒業生たち－」

東北学院史資料センター所長　河西　晃祐

東北学院の卒業生である大曾根源助を主人公とする絵本があります。しかし、その人物を知る人は本学の関係者でも少ないと思います。彼に影響を及ぼしたのが同じく本学の卒業生である高橋潔。そして、若き彼らに人格的な感化を与えたのがシュネーダー先生でした。

シュネーダー院長が述べた演説の一部、しかし重要な一部を確認すると、東北学院の教育の本質が浮かび上がってきます。シュネーダー先生が何者だったのかを知らずに東北学院を知ることはできません。シュネーダーから実際に薫陶を受けた学生たちの中に高橋潔と大曾根源助がいました。彼らは当時、東北から遠く離れた大阪で、社会的に弱き立場に置かれていた聾唖者たちの教育に携わっていました。ヘレンケラーが来日した際に東北学院を訪れた（1937年）のは、当時の日本の聾唖教育に本学の卒業生たちが従事し、大曾根は米国の聾唖教育の現状視察の際、ヘレンのもとを訪問し面談していた（1929年）ことが大きく関係しています。当時、聾唖教育界は「口話法」を重視し、「手話法」の廃止へと傾斜していました。手話の廃止に鋭く反対したのが、当時校長をしていた高橋潔でした。彼が訴えた言葉には、東北学院でシュネーダーから受けた薫陶が滲み出ています。

教育課程を修了した聾唖者が社会的に自立するために必要なのが就業でした。本学の卒業生で、教師をしていた加藤大策は、聾唖者の就業の道を開くために、教師の職を辞してダイヤモンド研磨会社に再就職し、聾唖者を就労者として積極的に受け入れました。こうした社会的な弱者の同伴者となった卒業生たちは、まさしく「地の塩」として生きた人々であり、東北学院の教育、シュネーダーの薫陶に触れた人々でした。東北学院の卒業生は20万人を数えますが、歴史資料センターは卒業生たちの事績を掘り起こし、後世に伝えていきたいと思います。

（文責：原田浩司宗教センター主任）

「地の塩」という生き方ー大阪市立聾唖学校の卒業生たちー

2022年度　修養会報告　2022年8月29日
東北学院大学史資料センター所長　河西晃祐

1936年5月11日　シュネーダー演説

「今一つの事を申し上げなければなりません。東北学院の将来は亦多分過去に於けるよりも一層困難になりませう。成程過去に於ていろいろ克服すべき困難と問題とが御座いました。けれども将来は一層多くなるでせう。

学校の物質的設備は未だ充分に実現されてゐません。財政的基礎は未だ充分に確立しません。他の学校との競争は益々激しくなりませう。

生徒数の増加に依って私が只今述べたやうな真の意味に於いての真のキリスト教教育を施す事が益々困難になりませう。また其の時特色を失って他の私立学校と等しくならうとする傾向がないでせうか？そして若しあるとすれば、それはその味を失った塩のやうなものとなるでせう。

之等は私共が学院の歴史の後半世紀に入らんとする今日　断固として対抗するのが最も適当と思はれる真の困難であり真の危険であります。」

30年以上にわたって院長を務め、数々の困難を乗り越えてきたシュネーダー最後の演説が伝えたかったこととは？

財政基盤の確立　＝　伝道団からの援助に頼らないためには、在校生からの学納金に依る外はない
↓
「生徒数の増加に依って　私が只今述べたやうな真の意味に於いての真のキリスト教教育を施す事が益々困難になりませう。また其の時特色を失って他の私立学校と等しくならうとする傾向がないでせうか？」＝現在にもつながる二律背反

ではシュネーダーが率いた東北学院が施してきた教育とは、どのようなものだったのか。

押川方義からシュネーダーへ

押川正義のイメージ
・東北学院を去ったのちの政治活動
・満蒙独立運動などへの関与など、ナショナリストとしての側面

一見すると、弱き者へのまなざしを感じないが、

キャリアのスタートは、バームの下での医療伝道団での活動

「伝道助手の押川氏は才能と意欲のある人物で、非常に有能な伝道者である。彼はキリスト教事業に全霊を傾けており、とても広範に巡回説教を行っている」（『イザベラ・バードの日本紀行』（上、講談社、2008年）

シュネーダーとは“何もの”だったのか

・卓越した経営能力（寄付金募集、学部改組）
・中会組織との軋轢
・地域社会から愛された米国人（帰国時・逝去時の行列など）

【今後の課題】
学内の「シュネーダー体制」を支えたのは誰だったのか？
キリスト教界や、キリスト教学校界における評価は？

・日本語を十分には使いこなさなかったという事実
・逸話をこえた「教育者」としての分析の必要性
（今回の報告では、この最後の点を薫陶を受けた卒業生の事績から）

1937年7月1日のヘレン・ケラー本学訪問

この日朝ザウグ〔ゾウグ〕部長は礼拝に於て宣頌をニコニコほころばせてこの喜びを我々に伝へ、午過より全高等学部生は校門より　玄関への道に整列して待つ事しばし、やがて出村院長、宮城県視学等を乗せた自動車を先導としてケラー女史は秘書トムソン女子に手をひかれ、見えぬ眼を開いて手を振りながら玄関前に立った。やがて喝采の奥からふりしぼる様な、所謂奇妙の声で話し始めた。一瞬この二十世紀の奇跡を聞かんものとして全学生は耳をすます。その声は直ちにトムソン女子によって通常の英語に直され、それを今度は岩橋氏が日本語に通訳するのである。
『東北学院の歴史』80-81頁

だがなぜヘレンは東北学院を訪問したのだろうか？

ヘレンはなぜ、東北学院を訪問したのか？

「神学部一年生が教科書として使用した彼女の自叙伝についての読後感を送ったのに対し、1933年11月にはヘレンから本学に宛てて返書が送られていた」ことは事実だが、それを取り次いだ卒業生と人的ネットワークが存在していた事実

「今から25年前1930年の冬の日であった。私がニューヨーク郊外のロングアイランドのホーレストヒイルスにあるケラー女史の宅を訪ねた。秘書のトムソン女子に親しく会うことができた。丁度ミドストリームの発刊された年であった。
　盲聾唖のケラーがいかにして、あのように言語を覚えたかについて尋ねた。聾唖教育者の私には不思議であったからである。ケラーが八歳の時サリバン女史を家庭教師にむかえ、指文字によって言語の指導を受けた。そうして五ヶ月目には六〇〇語を覚え、一年半で物語小公子を読むことができたと聞いた。ケラーから私にぜひ日本の聾唖者のために、日本の指文字を作るようにと勧められたのであった」

大阪市立聾学校長　大曾根源助『日本聴力障害新聞』（1955年7月1日付）

手話教育を進めた卒業生たち

高橋潔
1890（明治23）年　仙台市生まれ
東北中学卒業後に東北学院専門部に学び、
シュネーダーの薫陶を受ける

後米斯念後に、東北中学校教師を務めるが、東北学院の先輩であった杉山元治郎の勧めを受けて聾唖学校教師となる

1924（大正13）年　大阪市立聾唖学校（前年4月開講）校長就任
「ボーイは外国など行かないほうがいい。外国へ行かないで日本で幸せの少ない人のために尽くしなさい」

大阪市立聾唖学校における東北学院卒業生

高橋潔(1890)－東北学院専門部英文科
内田豊(1903)－東北学院高等師範
大曾根源助(1896)－東北学院専門部英文科
加藤大策（金平）(1895)－東北学院専門部英文科
櫻田茂(1896)－東北学院専門部文科

川嶋依子『高橋潔と大阪市立聾唖学校』（サンライズ出版、2010年）

昭和初期の聾唖教育法の対立

優勢になっていたのは「口話」主義

川本宇之介（純口話推進運動者・文部省との繋がり）

「手話はおそらく類人猿を距ること遠からざる時代の貨財であったであろう。さる原始的なものを取って源氏人間に学ばせようとするは、アナクロニズムも亦甚だしいものといはねばならない」

→　手話の使用が口話の可能性を妨げると主張

1933年1月　全国盲唖学校長会議　鳩山一郎文部大臣

「聾児に在りましては、日本人たる以上、我が国語をできるだけ完全に語り、他人の言語を理解し言語に依っての国民生活を営ましむることが必要であります〔す〕」　→　「日本精神論」との関りも

戦う高橋

「口話法は、単に平面的なことのみ教えるには可能でありましても、内面的な心の深部に入る人間性の教育には無理であると申さねばなりません」

「口話徹底の為に、手話を厳禁されておられることと存じます。指一本の動きで幾多の意思表示のできる手話法にかわって、自分の耳にさえ入らぬ、一つ一つの発音を苦しい思いをしてやらされているのであります。それは発音であって意味を持った言葉ではありません。内容を把握することがなければ、それは単なるものをいう人形に過ぎないのであります」

「ものをいう術をいくら教えても、人間の生きる指針を持たない者は、魂のない人間ロボットとも言えましょう。」

高橋の教育理念

自らの経験に照らした「宗教教育」の必要性

「手真似がわかる様になり、聾唖者の心の様子をはっきりと読むことの出来る様になるにつれて、いふに言はれぬ悲しみを覚えて来るのでした。（中略）一体聾唖者は何を楽しみに生きてゐるのであらうか知ら（原文ママ）親を恨み世の人を恨みしかして神仏を呪ひ乍ら送る重苦しい暗い、而も普通人に比して短命であると言はれる彼等の短き一生を考へた時、どうしてもそこには宗教の救ひより他には無いと思ったのであります」（高橋潔述『宗教々育に就て』＊＊年）

高橋の「宗教観」

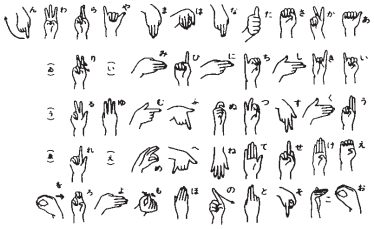
教会だけではなく、浄土真宗系寺院での「日曜学校」も実施

大曾根源助の功績

高橋は口話普及会の主張する欧米の聾唖教育論を確立し、反駁する目的で、大曾根源助を1929年にアメリカ・カナダに派遣

大曾根は、大阪朝日新聞特派員の伝手をつかって、ペンシルバニアでヘレンと会い、指文字の必要性と、手話と口話を併用する高橋の教育方針の正しさを確信

1929年9月から1930年3月まで、51校の聾学校を視察。帰国後に、日本語に適応した新たな指文字を開発



ヘレン・ケラーを招聘した理由とは？

ヘレン・ケラー招聘も、手話法の宣伝活動の一環であった可能性も

指文字の必要性を大曾根に示し、手話と口話を両立させた「奇跡の人」ケラー

↓

高橋らの活動にも関わらず、聾唖教育の現場では手話の禁止が続いていった事実

教育者　加藤大策という存在

昭和金融恐慌から世界恐慌へ至る時勢での聾唖者の就業困難さ

「海軍軍需工場のダイヤモンド研磨株式会社」への就労の機会

「ダイアモンドの件、加藤君にお願いしたよ。」

「よろしうございましたね。これでやれやれですね。でも、加藤先生、よくお引き受けになりましたね。説得大変だったでしょう。」

「いいや、よくわかっていてくれたよ。それにしても、恩給を棒に振ってくれたのだから。感謝しなくては、忘れてはいけない」

「僕は何とも思っていなかったのですよ。ただ、校長が行ってくれと、頭を下げられたことをむしろ恐縮していましたよ。そうして『はい、まいります』ただそう言っただけです。それが大阪市立聾学校なのです。僕だけじゃない。みんなそうですよ」（川渕依子『高橋潔と大阪市立聾唖学校』）

この就業には、高橋・大曾根と董場資郎らとの関り（東北学院卒業生ネットワーク）があった可能性もあるのでは？

jiho_140_06.pdf

東北学院史資料センター主催2022年度公開講演会

- 日　時：　2022年12月3日（土）
- 場　所：　土樋キャンパス　8号館5階　押川記念ホール
- 時　間：　13時00分～17時00分
- テーマ：　映画「ヒゲの校長」上映会＆講演会「日本のろう教育における東北学院同窓生のはたらき　～高橋潔・大曾根源助を中心に～」

講　師：　前田　浩氏（大阪ろう就労支援センター理事長）
　　遠藤　良博氏（宮城県立聴覚支援学校教諭）
　　高間　淳司　氏（大阪府立中央聴覚支援学校教員）

参考文献

川渕依子『高橋潔と大阪市立聾唖学校』（サンライズ出版、2010年）

『大曾根源助－日本の指文字の考案者』（大阪府立中央聴覚支援学校（大阪市立聾学校）、2017年）

『創立115周年記念誌－大阪市立聾学校いつまでも－』（大阪市立聴覚特別支援学校、2016年）

清野茂「昭和初期手話-口話論争に関する研究」（『市立名寄短期大学紀要』29号、1997年3月）

ハーラン・レイン（著），前田 浩（監修），斉藤 渡（翻訳）『手話の歴史（ろう者が手話を生み、奪われ、取り戻すまで）上下』（緑地書館、2018年）

第３回講演

「キャンパスライフを振り返り、今思うこと」

台原中学校教諭　小椋　汐里
（20年度文学部英文学科卒）

１　東北学院大学に進学を希望した理由と、入学前の印象

初めて東北学院大学への進学を考えたのは、地元福島で開催された大学説明会に参加したときでした。当時、私は高校２年生でした。その日、大学説明会にいらしていた職員の方がとても丁寧に話を聞いてくださったことを覚えています。「将来、英語を使って仕事をしたい」ことを話すと、英文学科や言語文化学科という選択肢があることを教えてくださり、「キリスト教にも興味がある」と言うと、毎日行われている大学礼拝の様子や、キリスト教を専門に学ばなくても、必修の宗教の授業やその他の講義が受けられることを説明してくださいました。また、全盲の学生を受け入れた前例はないけれど、どのような支援が可能かなどを検討してくださるというのです。さらに、実際に大学の雰囲気を感じ、必要となる可能性のある支援体制などをお互いに整理するために、直後に行われたオープンキャンパスへの参加を勧めていただきました。

参加したオープンキャンパスでは、職員の方々や先生方の親身な対応、学生の親切な態度などから、東北学院大学の魅力を感じることができました。どのような講義が開講されているかという大まかな説明をしていただき、とてもわくわくしましたし、講義以外にも、礼拝やサークル活動の話を聞き、大変興味がわきました。また、学内で教室などの場所を訪ねると、走って場所を確認した後に、私たち家族を案内してくれた学生の対応がとても印象に残っています。それまでオープンキャンパスに参加したどの大学よりも、それぞれが他者を思いやっているような温かさ、アットホームな雰囲気を感じました。校風、カリキュラム、大学礼拝が毎日あるということ、キャンパス内に寮があるということ、実家からの距離など、私にとって東北学院には完璧に条件がそろっていました。

その後、より具体的に相談をさせていただくために通常の講義を見学させていただくなど、学院大を第１志望に決めてから受験の日まで、何度も何度も話し合いの機会を設けていただきました。その度に、とても多くの先生方や職員の方が時間を割いてくださり、受験や入学後の様々な場面を想定した具体的な支援の方法などについて検討を重ねてくださいました。

その頃、全盲の私たちが通常の大学を受験する場合、中学生のうちからオープンキャンパスに参加し、高校１年生の間には大学の教授や職員の方と直接お話する時間をもたなければならないと言われていまし

た。特に視覚障害者の受け入れ経験のない大学を希望する場合には、受験資格さえもらえない場合があるので、志望校の変更の場合も考えると、それでもギリギリと言われていました。ですが、それまで別な大学を考えていたこともあり、私が初めて東北学院大学の職員の方とお話したのは高校２年生のときでした。通常なら手遅れだとしても仕方ない状況だったにもかかわらず、あそこまで時間を使い、親身に関わってくださった大学の対応には、驚くと同時に、とても感謝しています。

２　全盲という立場での４年間の学び

大学に入学してからの私の生活は、毎日がハッピーでした。毎日の講義は、英語、キリスト教、教育に関するものなど、わくわくするものばかりでした。上限の最大まで履修登録をし、さらに教授にお願いをして特別に受講させていただくこともありました。

１年次の時間割を作る際には、たくさんの方に夜遅くまで付き合っていただき、あれもこれもと詰め込んでいただいた記憶があります。その後も毎年、学務課、教務課の皆様にお手伝いいただき、本当に感謝しています。

授業を受ける際は、各科目を担当してくださる先生方とその都度お話をさせていただき、授業の形態に併せて様々なお願いをさせていただいていました。ほとんど全ての科目でお願いしていたことは、講義の際に配付するハンドアウトなどがある場合は「印刷したものではなく、データでいただきたい」ということです。紙に印刷された状態では、誰かに読んでもらう、点訳ボランティアに依頼して点字に直してもらう、スマフォのアプリで概要を掴むなどの方法で理解することになるため、他の学生と同じタイミングで受取ってもその場で中身を把握することが困難になります。しかし､データの状態でいただくことにより、パソコンを使って音声として把握したり、ブレイルメモという機器を使用して、点字に変換して読んだりすることが可能になるのです。授業の場でデータをいただける場合には、授業中に片耳にイヤホンをすることを許可していただき、先生のお話とハンドアウトの内容を聴きながら講義に参加させていただいていました。また、授業前までにデータをくださる先生が多かったので、データをいただいた時点で点字に変換し、先生のお話を聴きながら、持ち込み許可をいただいていたブレイルメモで点字になったハンドアウトを使って講義に参加することが多かったです。データのない資料をわざわざワードに興してくださる先生もいらっしゃいました。こんなに高い比率で、データ化した資料をいただけていた例は珍しいようで、当時も今もとても感謝しています。

他には、授業で使用する教科書は、どのページから扱うのかを早めに教えていただいて準備させていただいたり、学期末に文学作品などを読むような課題が出る予定があれば、先に教えていただいて点訳を始めさせていただいたりもしていました。黒板を使用するときには、声に出しながら文字を書いていただいたりもしていました。黒板の内容を口答で説明する時間がどうしても取れそうにないからと、内容をテキスト

データにしてくださった先生もいらっしゃいました。科目によって、授業中や試験のときに、パソコンの持ち込みを許可していただいていたのも特例です。どの先生も、第１回目の講義の前後を中心に、必要なことについて話し合いをする時間を作ってくださったということがとても大きかったと思っています。毎日楽しく講義を受けることができたのも、全て先生方のおかげです。

大学礼拝では、いつも同じ席を空けておいていただき、点字の聖書と讃美歌を用意していただいていました。指定の席を用意していただいていたのは、大勢の人が着席している中で空いている席をスムーズに見つけるのが難しく、また退場する際にも決まった位置からの移動がより分かりやすいという理由からでした。友人と一緒に出席するときには、隣の席も使わせていただいていました。礼拝に出席する友人が減ってくると、一人で礼拝堂に向かう私を見つけた職員の方が声をかけてくださり、席まで誘導してくださるようになりました。座席には、点字の聖書と讃美歌が用意されており、席に着いたときに、その日の拝読箇所と讃美歌の番号を教えていただきます。パイプオルガンの音色を聞きながら、該当するページを探して待っていました。点字の聖書は巻数が多く、60巻以上あったのではないかと思います。その中から該当する物を、職員の方が運んできてくださり、さらにその中の該当ページを私が開いていました。おそらく、これを用意するのに何十万円もかかったのではないかと思います。入学前の何度目かの話し合いで大学に伺った際、礼拝堂でそれを見せていただきとても驚きました。

土樋キャンパスで過ごすようになってからも、同じように礼拝に出席させていただいていました。聖書や讃美歌を運んでいただいたのか、各キャンパスに同じものを用意していただいていたのか分からないのですが、耳で聞くだけと思っていた礼拝が、入学前の想像以上に充実したのはこのおかげです。

私の大学生活を支えてくれたのは、先生方や職員の方だけではありません。共に学んだ友人、先輩、後輩も色々な面でサポートしてくれました。特に、同い年の友人の存在はとても大きかったように感じています。中学校、高校と盲学校で過ごした私にとって、同じ年頃の友人の９割以上が小学校でできた友人でした。盲学校は、とても生徒数が少ないので、学校内で新しい友人を作るのはとても難しく、中高の６年間でできた新しい友人といえば、友人の友人や、たまに交流に行く「学校の日」くらいでした。そのため、大学では同い年の仲間が周りにいてくれるだけでわくわくしましたし、特に気の合う友人とおしゃべりしたり、一緒に勉強したり、休みの日に出かけたりできたことは本当に嬉しかったです。

学校では、同じ学科の同級生とたくさん話しました。似たようなことに興味があるので、話も盛り上がります。一緒に勉強をして、刺激を受けることもできたと思います。２年間過ごさせていただいた寮では、他学科の学生とも仲良くなりました。自分と違うことに興味をもっているので、新しい話題に触れるきっかけにもなりました。寮での友人とは、家族より長い時間を

一緒に過ごすので、特に仲良くなれたような気がします。紙の資料の内容などをワードに打ち込み、データ化することで、私の学習を手伝ってくれる友人もいました。寮の中で、目隠しをして過ごす友人もいました。そのまま夕食を食べに食堂に向かったため、寮母さんはかなりびっくりした様子でした。最近では、就職により休みが合いにくくなってしまい、またコロナウイルスの影響により、なかなか直接会える機会がなくなってしまいましたが、ラインなどでやり取りをすると元気をもらえるような気がしています。サークルで出会った先輩、オリエンテーションリーダーだった先輩には、時間割の作成でアドバイスをいただいたり、学内で声をかけていただいたり、大変お世話になりました。今でも、同じ職業に就いた先輩とやり取りをすることがあり、繋がりが途切れないことに感謝しています。寮やサークルで出会った後輩と過ごした時間も、良い思い出の一つです。

3　全盲という立場で学院大学の宗教教育に感じたこと

おそらく「全盲だから」ということは関係なく、私は入学前から、大学で行われているキリスト教の講義や大学礼拝にとても興味がありました。幼稚園、小学校とカトリック系の私立の学校に通っていた影響ではないかと思います。

昔から宗教の授業が好きでしたし、キリスト教系の行事も毎年楽しみにしていました。なぜかと聞かれると、正直自分でもはっきりとした理由は分からないのですが、好きなアニメやドラマに主人公が教会に行くシーンが度々登場し、セリフの中にも聖書の言葉などが出てくることがよくあったので、憧れのようなものを感じていたのかもしれません。聖書や絵本を読んだり、ビデオを見たりしながらイエス・キリストの言葉について考えたり、イエス・キリストがおこした奇跡について知ったりすることで、なんとなく安心するような気がしていました。聖歌を歌ったり、自分たちがどのように行動すべきなのかについて話し合ったりする時間も、心が落ち着くような感じがして、私の好きな時間の１つでした。「好きな授業は？」と聞かれると、「宗教！」と答えることと「英語！」と答えることと、どちらが多かったのだろうと思います。小学校低学年の頃の私の夢は「宗教の先生」になることでしたし、高学年になっても、教員になるのなら教科は「宗教」だと思っていました。

このような小学生だったので、中学校の時間割が配られた日、どの曜日にも「宗教」がなく本気で驚きました。寂しくて、小学生の頃に使っていた聖書をときどき家で開いていました。点字ではなかったので、直感で開いた箇所を家族に読んでもらったりしていた記憶があります。高校生のときには、旅行に行ったカナダやフランスで、教会を見つけると入って行ったりもしていました。そんな私にとって、東北学院大学で宗教（キリスト教）の授業があり、毎日礼拝が行われているということは、大きな魅力の１つでした。

大学では、１年次、３年次、４年次の後期にキリスト教に関する科目を履修しました。聖書を読み、神の言葉について学んだ

り、命や死について考えたりしました。他の科目とは少し違った視点で物事を考えたり、日常生活の中ではあまり触れる機会のない聖書のことばを感じることのできる講義は、毎週の私の楽しみの１つでした。

先ほども触れましたが、キャンパス内の礼拝堂で行われる大学礼拝も大好きな時間でした。時間割の都合でどうしても教室が離れてしまう日以外は、欠かさず出席していました。３年生のときには、福島市の実家から新幹線で通学していましたが、後期は土曜日に授業がなく、礼拝にだけ出席していました。滞在時間20分ほどで帰るため、駅員の方たちを毎週驚かせていました。友人からは「特待生をねらっているのか」とよく言われていました。特待生になるには「成績以外に礼拝の出席率も高くなければいけない」という噂があったからで、私も途中までそれを信じてはいましたが、礼拝に行っていたこととは全く関係ありません。ただただパイプオルガンの音色が聞きたくて、賛美歌が聞きたくて、聖書にふれたくて、礼拝堂の雰囲気を感じたくて、毎日のように礼拝に通っていました。聖書や賛美歌を自分で読むことができたことは、やはりより礼拝を楽しみにしてくれていたと思います。

さらに、２年間を過ごした泉キャンパスの女子寄宿舎でも、毎週月曜の夜に礼拝が行われていました。夕食後に寄宿舎生全員で礼拝の時間をもつことができ、毎週良いスタートが切れたような気分になっていました。この礼拝のときにも、事前に拝読箇所を教えていただき、大学の礼拝堂から点字の聖書を貸していただいていました。

キリスト教教育の良さを感じるのは、宗教の授業や礼拝の時間だけではありません。普段の生活の中でも何度もその良さについて考えさせられる場面がありました。たとえば、ある朝点字ブロックを伝いながら校舎に向かって歩いていると、一人の学生が声をかけてくれました。「カラーコーンで道がふさがっているから」と、点字ブロックがつたえる次の地点まで、手を引いて誘導してくれました。これまでも述べてきたように、このような学院大の学生の温かさに触れる機会は入学前から何度もありました。それはきっと、学院大の温かい先生方とキリスト教教育のおかげなのではないかと思います。

そして、今でも学院生や学院の卒業生の優しさに触れる機会があります。職場からの帰り、地下鉄の車内で席を譲ってくれるのは、かなりの確率で学院生かその卒業生です。席が空いていない日や空いている席が分からずに立っているとき、「座りますか？ 空いていますよ。」などと声をかけてくださった後、「学院大の大学案内や新聞で私のことを見た」と話してくれる方が時々います。そして、そのように話しかけてくれる方の多くが、「私も学院生です。卒業生です。」などと教えてくれます。そのためか、台原駅から地下鉄に乗っても、座席に座れるのは五橋駅からになることが結構あるんです。学院生、やっぱり優しいですね。

４　４年間での良き思い出

毎日が楽しかったのですが、特に１つを挙げるとすれば、ゼミの仲間と合宿に行っ

たことが思い出に残っています。同級生や先輩、ゼミの古川先生と蔵王に行きました。１泊２日の合宿でした。普段と違う場所で、川端康成の雪国の翻訳について考えるのも、新鮮でとても楽しかったですし、バスの中や体育館、宿泊先などで、おしゃべりをしたりゲームをしたりしたことも本当に良い思い出です。体育館では、フリスビーを投げて飛んだ長さを競ったり、ズボンに挟んだ紙の尻尾を取り合うゲームをしました。私も参加できるゲームを考えてもらったこと、友人と手を繋いで走ったこと、とても嬉しかったです。夜にはビンゴゲームやクイズをしました。両隣の先輩に一緒に数字を見てもらいながら参加しました。景品としてもらったスマフォの充電器のキャップを今でももっています。

また、先輩２人と温泉に入ったことも良い思い出です。それまで、学校の行事では、なかなか大勢で入浴することができず、温泉は家族や特定の中の良い友人としか入ったことがありませんでした。周りの大人が、風呂場は濡れていて滑りやすいことなどを心配してくれていたからなのですが、このときは風呂の中でおしゃべりをしたりお湯をかけ合ったりしてはしゃぎ、楽しい思い出を作ることができました。

視覚障害のある知り合いの中には、大学でゼミを選ぶことができなかったという人もいます。障がいが理由で、教授が「いい」と言ってくれたゼミにしか入れなかったり、「単位はあげるから参加しなくても良い」と言われたりすることもあるようです(最近の話ではありませんが)。そんな中、私は自分が興味のあるゼミを選ばせてもらい、普段の授業だけでなく、合宿や花見などのイベントにも参加できました。古川先生をはじめ、先輩方や同級生のおかげです。

5　教員になって改めて思うこと

学院大の卒業生として恥じないよう、生徒に寄り添える教員になりたいと思っています。大学では、視覚障害者として初めて入学を認めていただき、たくさんの先生方や職員の方々に様々なサポートをしていただきました。何が必要なのか、その都度相談をさせていただき、共に方法を考えていただきました。在学中はもちろんのこと、入学前からそれを繰り返していただいてきました。

そして今も、私の職場である台原中学校に、村野井先生やそのゼミ生がいらしてくださり、ゼミ生はボランティアとして私を手伝ってくれています。紙ベースでしかない指導書をデータ化し、私が読める形式へと変換してくれたり、実際に授業に入り、プリントの配布や机間指導を手伝ってくれています。卒業後までサポートを続けていただけることに、感謝してもしきれないほどです。そもそも、学院大に入学していなければ、今のように一般の中学校で教員をしている私はいなかったのではないかとも思います。

中学生と接していると、「本当に色々な子どもがいるんだな」と実感します。当たり前のことなのですが、色々な性格の子どもがいて、それぞれが異なる環境で育っています。一人一人異なる悩みをもっていて、大人にどう接してほしいのかという感覚も

違います。私たちは、どんな接し方で何をすればその子どものためになるのか、その都度考えなければなりません。

私はまだまだ経験も足りず、適切に判断できていないことも多いと思います。しかし、大学で周りのたくさんの方々に温かく接していただいたときの気持ちを忘れず、生徒の思いを親身になって理解しようとする努力はし続けたいと思っています。今度は私自身が、生徒のために最善を尽くせる教師になることで少しでも恩返しをしたいと考えています。

2022年度　東北学院大学卒業礼拝説教「LIFE LIGHT LOVE」

宗教部長　原田　浩司

聖書：ヤコブの手紙1：12－21

試練を耐え忍ぶ人は幸いです。その人は的確な者とされ、神を愛する者に約束された命の冠を受けるからです。誘惑に遭う時、誰も「神から誘惑されている」と言ってはなりません。神は、悪の誘惑を受けるような方ではなく、ご自分でも人を誘惑したりなさらないからです。人はそれぞれ、自分の欲望に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。そして、欲望がはらんで罪を産み、罪が熟して死を生みます。私の愛するきょうだいたち、思い違いをしてはなりません。あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の源である御父から下ってくるのです。御父には、変化も天体の回転による陰もありません。御父は、御心のままに、真理の言葉によって私たちを生んでくださいました。それは、わたしたちを、いわば造られたものの初穂とするためです。私の愛するきょうだいたち、よくわきまえておきなさい。人は誰でも、聞くに速く、語るに遅く、怒るに遅くあるべきです。人の怒りは神の義を実現しないからです。それゆえ、あらゆる汚れや甚だしい悪を捨て去り、植え付けられた御言葉を謙虚に受け入れなさい。御言葉はあなたがたの魂を救うことができます。

説教：LIFE LIGHT LOVE

ここにお集まりの皆さん、ご卒業おめでとうございます。東北学院大学の学生として、皆さんと行う最後の礼拝となります。大学の宗教部長として、今日は代表して、卒業される皆さんに聖書の言葉を贈ります。

この卒業式で読みました聖書は「ヤコブの手紙」という、実は大学礼拝でもあまり取り上げる機会の少ない箇所ですが、今年は「**LIFE LIGHT LOVE**」という説教題に合わせて、この聖書箇所を選びました。今日の聖書の冒頭の12節にはこう記されています。「試練を耐え忍ぶ人は幸いである。その人は的確な者とされ、神を**愛**する者に約束された**命**の冠を受けるからです」。

「試練を耐え忍ぶ人は幸いである」。今日まで皆さんが過ごした4年間の学生生活ですが、そのうち丸３年間、新型コロナウイルス感染症という世界的な未曽有のパンデミックの影響を受け、皆さんの貴重な学生時代が、まさに試練の時となりました。そして、この1年間は、ロシアによるウクライナ侵略を契機に、世界中でエネルギーの物価高騰、それに伴う値上げラッシュが起きています。また、この「3月」と言えば、皆さんがまだ小学生だった頃、今から12年前の3月11日に東日本大震災を経験しました。こうして、学校で学びの生活を過ごす若き青春の時代に、皆さんは文字通りに「試練」に見舞われました。皆さんはこの試練の中、それを耐え忍びながら、東北学院大学での学びの過程を修了し、今日、卒業する「適

格者」と認められて、あいにくの雨天となりましたけれども、「晴れて」卒業式に臨んでいます。そのような皆さんであるからこそ、ここでヤコブの手紙の言葉を、そして東北学院のスクールモットーの言葉「LIFE LIGHT LOVE」の言葉を贈りたいのです。

「試練を耐え忍ぶ人は幸いである。その人は的確な者とされ、神を愛する者に約束されたいのちの冠を受けるからです」。この言葉は、イエス・キリストがマタイによる福音書5章の「山上の説教」のはじめに弟子たちに教えた、「心の貧しい人々は幸いである、悲しむ人々は幸いである」からはじまる「八つの幸」の教えを連想させます。

「試練を耐え忍ぶ人は幸いである」。試練は何の前触れもなく突然降りかかってきます。そのような試練を、皆さんは震災やコロナをとおして経験しました。そうした試練を耐え忍ぶ中で、聖書は、耐え忍んだ日々は不幸だったと、ネガティヴに捉えるのではなく、寧ろポジティヴに耐え忍ぶ人は幸いである、と捉えます。試練を経たからこそ、そこから新たに得られたことや気付いたことがあります。聖書には「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」という言葉もあります（ロマ5：3以下）。試練を経たのがあなた一人、わたし一人ではなく、皆がその試練を分かち合い、共有しました。震災もコロナも、試練の中で同じ苦しみ痛み、嘆きを共有する他者へ、隣人へ共感（コンパッション）する力、共感の大切さへの気付きを、皆さんは得ることができたのではないでしょうか。

そして、改めて「幸い」であるとはどういうことなのか、どのような人が幸いなのか、自分自身が幸いであるのかを、皆さんは追及して、これからの**人生（ライフ）**を豊かに過ごしていただきたいと思います。**人生**には試練があります。そして、今日の聖書にあるように、**人生**には数々の「悪の誘惑」が押し寄せ、あなたを「幸い」ではなく、「ひとはそれぞれ、自分の欲望に引かれ、おびき寄せられて」**人生**を奈落の底に突き落とそうとします。東北学院大学で学んだ皆さんにとって、その豊かな**人生**を考える道しるべとして、「**LIFE**」からはじまる東北学院のスクールモットー「**LIFE LIGHT LOVE（いのち・ひかり・あい）**」を思い出して欲しいと思います。

今日の聖書では一行目に「**命**の冠」とあります。私たちが生きる**命**は、神によって授けられた**命**であることを、聖書は教えています。わたしたちの**命**は、私たち自身のものである以前に、神のものである。ですから、聖書は神を無視して生きる事、自分自身を中心に、つまり「自己中」に生きることを罪と呼んでいます。私たちが生きる人生、私たちに授けられている**命**は、つまり、自分のためだけの**人生**、自分のためだけの**命**ではないのです。試練の中で、コンパッションを得た皆さんだからこそ、東北学院で学んだ皆さんだからこそ、その**命**について、ライフについて、思い起こしてください。

そして、「**LIGHT（光）**」です。今日の聖書では、5行目に「**光**の源」とあります。こう書かれていました。「あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、**光**の源である御父から下ってくるのです」。ここには、人生において本当に必要なものは「**光**の源」である神から下り、授けられるというのです。**光**は**生命**の成長に不可欠な要素ですが、その**光**の源

が神であると聖書は教えます。

そして、「**LOVE（愛）**」ですが、聖書は**愛**という名詞ではなく、動詞として数多く登場します。今日の聖書でも、三度「**愛する**」と記されています。聖書の教えは徹底しています。**愛しなさい**、という教えです。旧約聖書レビ記19章18節に「隣人を自分のように**愛しなさい**」と、紀元前の遥か昔から、主の戒めとして受け継がれてきました。そして、福音書において、イエス・キリストは律法の専門家から、律法の中で、つまり神の戒めの中で、何が最も重要かと問われた時、間髪を入れずに「心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を**愛しなさい**。これと同じく重要なのが隣人を自分のように**愛しなさい**」。

こうして試練という言葉からはじまる今日のこの聖書には「**LIFE LIGHT LOVE**」が示されています。どうか卒業される皆さんに、今日の聖書の終わりの言葉をお薦めします。「御言葉は、あなたがたの魂を救うことができます」。どうか東北学院大学で触れた御言葉を携えて社会へ羽ばたいてください。皆さん、ご卒業おめでとうございます。

＜祈祷＞

天の主なる神さま。ここに多くの卒業生たちが集い、厳かに卒業礼拝、卒業式を開催することができ感謝いたします。今日まで過ごしてきた日々には幾つもの試練がありました。ですが、一人ひとりがこうして学びを無事に終えることができましたことを感謝いたします。主なる神、どうか今日をもって東北学院大学を卒業する一人ひとりの人生の前途を祝福し、「LIFE LIGHT LOVE」のキリスト教の基本の精神をもって、人生において降り注ぐ試練や誘惑に打ち勝つ力をお与えください。どうかこの場に集う一人ひとりが、本当の意味での、幸せな人生を歩んでいけますよう、守り導いてください。東北学院大学の真の創設者であるイエス・キリストの御名によって祈り願います。アーメン。

（2022年度東北学院大学卒業礼拝説教　　2023年3月23日　「LIFE LIGHT LOVE」）

2022年度

東北学院中学校・高等学校　宗教活動報告

2022年度　東北学院中学校・高等学校　宗教活動報告

東北学院中学校・高等学校　宗教主任　松井　浩樹

共学化初年度、女子の活躍が目立った一年となりました。学院祭の礼拝とクリスマス礼拝の司会も担当し、特にクリスマス礼拝のハレルヤ・コーラスの賛美は圧巻でした。積極的に学校に関わろうとする姿勢が顕著で、学校全体が活性化した一年でありました。

コロナ禍も随分と収まりつつある次年度も、良き伝統を継承しつつ、新しい歩みを続けてまいります。

2022年8月9日（火）
キリスト教青年会　夏の修養会
震災遺構の見学

2022年11月25日（金）
クリスマスツリー点灯式

2022年12月23日（金）
クリスマス礼拝
中学１年と音楽部・聖歌隊は入堂し、各教室へユーチューブ配信

1．宗教部

部　長　　松井浩樹
副部長　　鈴木雅光
教　諭　　菊池　秀
教　諭　　髙アンナ

2．礼　拝

８時30分から45分までの15分間、放送による礼拝（曜日によって１学年のみ入堂）をささげる。前奏は短く音楽科教員による奏楽、讃美歌と頌栄は曜日によって固定し、予め音楽科の教員・音楽部生徒が１節のみを歌った録音したものを聞きつつ歌う。聖書朗読、説教、祈祷後、頌栄を聞きつつ歌い、音楽科教員による後奏を聞いて終わる。テキストは、ルカによる福音書の連続講解。

礼拝の司会・説教者は基本的に月曜日、松井浩樹宗教主任、火曜日・岩上敦郎副校長、週末は髙アンナ教諭、その他はキリスト者教員、月一度のペースで聖書科非常勤講師としても勤務されている田中信矢先生（南光台キリスト教会牧師）に依頼した。半期に一度、大西晴樹先生（院長）、西間木順先生（榴ケ岡高等学校宗教主任）に依頼した。1月には大西晴樹学院長・学長をお招きし、新年礼拝としてささげた。

3．授　業

各学年週一時間、必修科目として実施。キリスト教の基礎知識、価値観、歴史を学び、人格形成にも配慮し、展開することをねらいにしている。担当教員は以下の通りである。

学　　年	担 当 者	主な内容
中学１年	松井浩樹	キリスト教入門
中学２年	髙アンナ	新約聖書入門
中学３年	田中信矢	旧約聖書入門
高校１年	髙アンナ・田中信矢	旧約聖書Ⅱ・３要文
高校２年	田中信矢・松井浩樹	キリスト教の歴史Ⅰ
高校３年	松井浩樹	キリスト教の歴史Ⅱ

4．早天祈祷会

毎週火曜日、朝７時50分から８時00分まで松井浩樹宗教主任のもと実施。朝の礼拝で歌う讃美歌を歌い、司会者が詩編を交読、短く奨励、参加者で祈祷･主の祈りをささげる。主に宗教部の教員が参加。平均出席３名。

5．キリスト教青年会

夏の修養会　８月９日（火）

石巻市　震災遺構　門脇小学校　〒986-0834　宮城県石巻市門脇町４丁目３-15

みやぎ東日本大震災津波伝承館　〒986-0835 宮城県石巻市南浜町２丁目１－56

教員２名　生徒４名　参加

春の修養会　2023年３月28日（火）

日帰りで「震災遺構（旧女川交番）」「シーパルピア女川」「女川駅展望台」）を見学。

教員２名　生徒２名　参加

6．共に聖書を学ぶ会

年４回、保護者（卒業生も含む）有志と宗教部教員による聖書の学びである。

第251回　６月30日（木）15時45分　本校会議室１　テモテへの手紙Ⅱ3:10-17
「なぜ、聖書を学ぶのか」松井浩樹宗教主任

第252回　８月29日（月）15時45分　本校会議室１　ヨハネによる福音書11:1-16
「ラザロの復活」松井浩樹宗教主任

第253回　12月２日（金）司会　松井浩樹宗教主任
奨励　髙アンナ教諭　保護者30名　参加
祝会　短縮の形態で実施

7．第40回教職員修養会

主　題：『聖書にきく』～東北学院のキリスト教

日　時：2022年８月19日（金）９時00分～12時10分

場　所：本校会議室１

講　師：藤野雄大先生（東北学院大学文学部総合人文学科　講師）

参加者：10名

8．行　事

入　学　式	４月８日（金）短縮、人数制限により、３回に分散。
寄宿舎入舎式	４月８日（金）短縮、人数制限による。
１学期始業式	４月11日（月）放送による。
イースター礼拝	４月25日（月）田中信矢先生（南光台キリスト教会牧師）
創立記念礼拝	５月13日（金）髙アンナ教諭
墓　前　礼　拝	５月13日（金）中止
ペンテコステ礼拝	５月30日（月）松井浩樹宗教主任
ギデオン協会聖書贈呈	６月１日（水）仙台支部　篠原剛二先生

１学期終業式	９月29日（木）放送による。
２学期始業式	10月３日（月）放送による。
宗教改革記念礼拝	10月31日（月）説教　藤野雄大先生 （東北学院大学文学部総合人文学科）
ツリー点灯式	11月25日（金）16：30　礼拝堂にて 説教　髙アンナ教諭
クリスマス月間	11月28日（月）～12月23日（金） 松井宗教主任　髙教諭　名越教諭　橋本教諭　高田教諭 西間木榴ケ岡高校宗教主任 田中先生（南光台キリスト教会牧師・本校講師）
クリスマス礼拝	12月23日（金）説教　大久保直樹先生 （宮城学院中学校高等学校　宗教主事） 中学１年と音楽部・聖歌隊は入堂し、各教室へユーチューブ配信
クリスマス献金	389,708円 （仙台キリスト教育児院 194,854円、小百合園に194,854円を送金）
高校３年卒業説教	2023年１月17日（火）説教　　藤野雄大先生 （東北学院大学文学部総合人文学科）
寄宿舎卒業礼拝	2023年２月28日（火）松井浩樹宗教主任
祝会	短縮で実施
高等学校卒業式	2023年３月１日（水）
東日本大震災追悼礼拝	2023年３月10日（金）　説教　髙アンナ教諭
２学期終業式	2023年３月17日（金）
中学校卒業式	2023年３月18日（土）

９．キリスト教学校教育同盟　東北・北海道地区教育研究集会中高部会

主　題：『希望と喜びに生きる―新たな転換期に立つキリスト教学校』

日　時：2022年10月27日（木）～28日（金）

場　所：仙台ガーデンパレス、東北学院中学校・高等学校

講　師：片瀬一男先生（東北学院大学教養学部教授）

演　題：『人文学とデジタル技術の出会い』

教職員修養会について

東北学院中学校・高等学校　宗教主任　松井　浩樹

中高の教職員修養会（以下、修養会と記す）の活動をまとめてみたい。百年誌によれば、時の院長、小田忠夫先生による発案によるものであった。第一回は1954年（昭和29年）8月11日から２泊３日、宮本武之助先生（東京神学大学教授）を講師に招き鬼首温泉の宮沢温泉で25名の参加を得て開催されている。１日目の主題は「信仰に生きること」、２日目は「基督教主義学校職員のあり方」である。以後の講師は武部啓、熊野義孝、北森嘉蔵と顔ぶれが見られ、北森嘉蔵からは会場を中山平に移している。以後、紛争時代まで継続し、しばらくの中断のあと復活し、コロナ禍で２度中止の憂き目を見たが今日でも継続されている大切な教職員向け宗教行事の一つである。

私が着任した頃（15年ほど前）は、すでに泊を伴う修養会ではなく仙台市内のホテルを会場に午前・午後と昼食を挟んでの一日修養会の形態であった。その前は松島で泊を伴うものもあったと聞いているが、多くの方々が気軽に参加してほしい趣旨のもと変更に至ったと推測される。新しい校舎となる小鶴に移った時から、仙台から離れていること、準備を整えやすいことなどを理由に学校を会場にし、やはり午前・午後と間に講師と昼食を共にする形態とした。ちなみにお招きした講師（役職は当時・敬称略）は大崎節郎（尚絅学院長）、深谷松男（宮城学院院長）、松本宣郎（東北大学文学部）など、主に大学関係者が多く初回からそうであったように、またそうでなければならない思いが自分の中にあったである。しかし、やがて学内から講演が難しい、専門的すぎる、もっと身近な話題がよいなどの意見が聞かれ始めたところから中高部門から酒井薫（宮城学院中高宗教主事）をお招きし、まさに中高教職員の修養を目指したのである。

今年で40回を迎えた修養会は、大学部門からではあったものの若手のアメリカ・キリスト教史研究者、藤野雄大先生をお迎えした。先生が学院大学に赴任される前に、それこそ土樋キャンパス礼拝堂で礼拝説教を聞いたこともあるなどして、お願いをし快くお引き受けになったのである。主題は「聖書に聞く」、これも1954年（昭和29年）から変化はなく、副題を講師によって決めていただく。藤野先生の副題は「東北学院とキリスト教」と題し、講演１が「シュネーダーの生涯」、講演２が「シュネーダーの教育観」であった。注目すべきは、シュネーダー先生の講演「基督教主義の危機に際して東北学院の使命を惟ふ」（1931年１月24日）からの指摘であった。その教育観として、キリスト教信仰と教育の両立、神からの使命への忠実さ、知識の伝達と人格形成、個人の救いと世界全体の向上の４つであった。

夏期休暇最後の日、明日から授業再開という「また明日から大変になる」という後ろ向きの思いから解き放たれ、参加者一同は大いに励まされ、再びキリスト教教育に固く立つ志を

新たにしたのである。そして改めて、この学舎に脈々と流れる教育観に引き戻される思いを与えられ、まさに豊かに修養され、歴史は紡がれていくのである。

2022年度

東北学院榴ケ岡高等学校　宗教活動報告

2022年度　東北学院榴ケ岡高等学校　宗教活動報告

東北学院榴ケ岡高等学校　宗教主任　西間木　順

新型コロナウイルス感染症の不安の中にありますが、日々の礼拝を捧げられたことは感謝です。礼拝は、礼拝堂と各教室に分かれて捧げました。礼拝堂には一週間毎3～4クラスずつ入りました。他のクラスは、礼拝堂からの配信を見ながらの礼拝でした。讃美歌は全節歌いました。

教職員対象のキリスト教教育研修会では、東北学院大学の田島卓先生に『旧約聖書の複数の声』と題するご講演をしていただき、聖書の読む際の新たな視点が与えられました。

聖書科の授業は、専任1名、非常勤講師2名が担当しました。非常勤の先生には授業の他に、週一回の礼拝説教も担当していただきました。今年度非常勤講師を三年間、礼拝説教を四年間担当してくださいました西川鉄也牧師が仙台を離れることになりました。

これからも職員が心を合わせ、思いを一つに神から託されているキリスト教教育を行っていきたいと考えております。

2022年4月27日（水）　イースター礼拝
説教：宗教センターチャプレン　野村 信

2022年10月14日（金）ギデオン協会聖書贈呈式
仙台支部　篠原 剛二先生

2022年11月25日（金）
クリスマスイルミネーション点灯式

2022年12月23日（金）クリスマス礼拝
説教：仙台南伝道所　佐藤 由子牧師

1．宗教部　構成メンバー（敬称略）

部　長　宗教主任　西間木　順

１学年　南部悦子、伊藤祥哉　　２学年　庄司清彦　　３学年　松山彩子

2．年間聖句　主題「共同体としての学校」

「知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。」（コリントの信徒への手紙一８章１節）

①礼拝する共同体　　②共に学ぶ共同体

目標　キリスト教主義に基づき人格を陶冶する。

①隣人への愛の実践と感謝の心を育くむ

②聴く・祈る・歌う学校へ（礼拝を大切にする学校へ）

3．礼　拝　８時40分～８時55分（15分）

礼拝堂、礼拝堂からの配信のハイブリッド

参 加 者：全生徒、全教職員

テキスト：ヨハネによる福音書、ヨハネの手紙一、使徒言行録（９章～）の連続講解

説 教 者：（学内）西間木順宗教主任、後藤昌男教諭、最上巌教諭

野村信先生（宗教センターチャプレン）

（牧師）中本純牧師（日本基督教団仙台東六番丁教会）

西川鉄也牧師（日本基督教団仙台松陵教会）

加藤秀久伝道師（日本基督教団仙台南伝道所）

奏　　楽：最上巌教諭

4．早天祈祷会　　毎週水曜日　８時00分～８時15分

宗教主任の司会で、讃美歌を歌い、「詩編」を輪読し、参加者で祈祷をささげる。

5．授　業

各学年週１時間、必修科目として実施

学年・コース	使用テキスト／内容	担　当　者
１学年全コース （８クラス）	『キリスト教とは何か』 『東北学院の歴史』	西間木順宗教主任
２学年全コース （８クラス）	『旧約聖書を読もう』	西間木順宗教主任（３クラス） 加藤秀久伝道師（５クラス）
３学年 （９クラス）	『旧約聖書を読もう』 『新約聖書を読もう』	西間木順宗教主任（３クラス） 中本純牧師（５クラス） 加藤秀久伝道師（１クラス）

学年・コース	使用テキスト／内容	担　当　者
３学年 総進 TG 聖書 （３クラス）	『東北学院の歴史』	西間木順宗教主任

※教会レポートの代替：非常勤講師による説教の動画を視聴しレポートを提出

６．特別礼拝・行事

始　　業　　式　　４月８日（金）

第６４回入学式　　４月11日（月）

イースター礼拝　　４月27日（水）

説教者　野村信先生（宗教センターチャプレン）

説教題　『多くの実を結ぶ』

聖　書　ヨハネによる福音書12章24節

創立記念週間　　５月９日（月）～13日（金）

創立記念式典　　５月14日（土）

説教者　瀬谷寛牧師（日本基督教団仙台東一番丁教会）

説教題　『神の業が東北学院へと広がりゆく』

聖　書　マルコによる福音書４章30－32節

創立記念墓前礼拝　　５月14日（土）（雨天のため礼拝堂で実施）

説教者　西川鉄也牧師（日本基督教団仙台松陵教会）

説教題　『東北学院の建学の基』

聖　書　ヘブライ人への手紙11章１－６節

ペンテコステ礼拝　　５月27日（金）

説教者　長尾厚志牧師（日本基督教団仙台ホサナ教会）

説教題　『聖霊が一人一人に』

聖　書　使徒言行録２章１－３節

伝　道　週　間　　７月14日（木）～21日（木）

説教者　長手陽介伝道師（日本基督教団泉高森教会）

聖　書　エレミヤ書17章５－８節

説教者　大西晴樹先生(学校法人東北学院院長･東北学院大学学長)

聖　書　ヨハネによる福音書13章１－５節、12―17節

説教者　原田浩司先生（東北学院大学宗教部長）

聖　書　ルカによる福音書15章１－７節

説教者　大門耕平先生（東北学院大学文学部総合人文学科講師）

聖　書　マタイによる福音書５章43－48節

説教者　大久保直樹先生（宮城学院中学校・高等学校宗教主事）

聖　書　ローマの信徒への手紙６章12－14節

閉　講　礼　拝　　７月22日（金）

キリスト教教育研修会　　８月22日（月）14時00分～15時30分

講　師　田島卓先生（東北学院大学文学部総合人文学科准教授）

講演題　『旧約聖書の複数の声』

開　講　礼　拝　　８月25日（木）

※９月５日（月）礼拝説教　今城慰作先生

（北星学園大学付属高等学校校長・宗教主任）

聖　書　ローマの信徒への手紙６章12－14節

９月８日（木）礼拝説教　松井浩樹先生

（東北学院中学校・高等学校宗教主任）

聖　書　マタイによる福音書15章21－28節

前期終業式　　９月30日（金）

後期始業式　　10月３日（月）

ギデオン協会聖書贈呈　　10月14日（金）

宗教改革記念日礼拝　　10月31日（月）

説教者　林完赫牧師（日本基督教団仙台長町教会）

説教題　『若者よ、お前の若さを喜ぶがよい！』

聖　書　コヘレトの言葉11章9節

クリスマスイルミネーション点灯式　　11月25日（金）

クリスマス週間　　12月19日（月）～22日（木）

説教者　野村信先生（宗教センターチャプレン）

聖　書　イザヤ書60書1－3節

説教者　原田浩司先生（大学宗教部長）

聖　書　ルカによる福音書2章8-21節

説教者　松井浩樹先生（中学校・高等学校宗教主任）

聖　書　ルカによる福音書5章33-39節

説教者　髙アンナ先生（中学校・高等学校教諭）

聖　書　ヨハネによる福音書1章9節

クリスマス礼拝　　12月23日（金）

説教者　佐藤由子牧師（日本基督教団仙台南伝道所）

説教題　『わたしの目には、あなたは高価で尊い』

聖　書　イザヤ書43章1－7節

※１月19日（木）礼拝説教　大西晴樹東北学院院長

聖　書　ルカによる福音書15章11－24節

卒　業　礼　拝　　2023年１月20日（金）４校時目　対象　３学年
説教者　平賀真理子牧師（日本基督教団岩沼教会）
説教題　『主に選ばれし者の掟』
聖　書　ヨハネによる福音書15章11－17節
第６２回卒業式　　３月１日（水）13時
3.11東日本大震災を覚えて　　３月10日（金）特別プログラム
終　　業　　式　　３月24日（金）

７．キリスト教学校教育同盟東北・北海道地区　新任教師研修会

日　時：９月５日（月）　本校会場
参加者：河本和文校長、佐藤周副校長（発題）、石山佳歩教諭、西間木順宗教主任

８．一般社団法人キリスト教学校教育同盟東北・北海道地区　中高部会　教育研究集会

日　時：2022年10月27日（木）～10月28日（金）
当番校：東北学院中学校・高等学校
参加者：菊池進太郎教諭、西間木順宗教主任

９．ボランティア

１）生 徒 会　ノーモア注射～希望の本プロジェクト／エコキャップ回収
２）生徒有志　ありのまま舎帯封糊付け作業
３）１、２年生 クリスマスカード制作
結いの会、ありのまま舎、コスモス向陽台、松陵市民センターへ届けました。

10．その他

１）聖書科非常勤講師　加藤秀久先生が按手礼を受けられました。
２）今年度礼拝説教を担当してくださいました西川鉄也先生が仙台を離れます。
３）2023年度キリスト者の常勤講師が採用されました。

年間聖句　「知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。」

（コリントの信徒への手紙一　8章1節）

東北学院榴ケ岡高等学校　宗教主任　西間木　順

わたしたちが、生き生きと希望を持って、生きていくために、何が必要だと皆さんは考えるでしょうか？

わたしはよくスクールカウンセラーの佐藤先生とお話をする機会があります。佐藤先生のお話が、聖書と結びついていることが多いと気づかされます。

佐藤先生は、生き生きと希望を持って生きていくために必要なことは「愛」だとよく言われています。誰かから愛されていると実感したときに、その愛が、私たちの心のエネルギーとなって、生き生きと希望を持って生きていくことができるのです。

もし誰かから愛されていないと感じたときに、私たちは、他者に対して恐怖を感じたり、反抗的になったり不安定な性格になったりして、しっかりとした生活を送ることができなくなってしまいます。そして、愛されていないのは、自分に欠点が多いからだと、自己肯定感を持つことができなくなってしまいます。

私たちが、毎朝の礼拝で読んでいる聖書には、命を賭して私たちを愛し抜かれたお方がおられることが書かれてあります。そのお方を通して、真実の愛、神の愛が示されたこと、私たちの心の中に神の愛が注がれていることが書かれてあります。神が私たちを愛されているのは、私たちが生き生きと希望を持って生きていくためです。私たちの心の中に注がれている神の愛が、私たちの心のエネルギーとなって、生き生きと希望を持って生きることができるのですし、神から愛されている者として、神の愛に促され、神から与えられている使命をこの世の中で実践していくことができるようになるのです。

始業式と入学式で共に読みました聖書には、「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」と書かれてありました。みんながこの学校に来てよかったと思える学校にしていくためにも、「神の愛」に基づく主体的な行動が求められます。この学校は、神の愛に基づく共同体なのです。

神の愛に基づく行動をしていくために、まず自分が、神から愛されていること、信頼されていることに気づいていきたい。神の愛を正しく受け取る者でありたいのです。

礼拝の中で語られる神の言葉を通して示される神の愛を用いて、自分の心と対話しつつ、神から愛されている者として、どのように生きていくのか、この学校で身に着ける知識をどのように神の愛の中で活用していくのか、考えていきましょう。

今年度の聖句を「知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる」としました。東北学院大学土樋キャンパスにあります90周年記念館に掲げられている聖句です。この聖句を心に刻み、今年度の学びを共にしてまいりしょう。

（2022年4月12日礼拝説教より）

2022年度

東北学院幼稚園　宗教活動報告

2022年度　東北学院幼稚園　宗教活動報告

東北学院幼稚園　園長　島内　久美子

2022年度も感染防止対策は継続となりましたが、礼拝時に讃美歌を歌うことができ、改めて共に声を合わせて賛美する喜びを感じることができました。年間礼拝計画の下、主に宗教センターチャプレンが14回来園し、礼拝メッセージを行ったことで、園児・教職員の聖書理解が深まったように思います。また､花の日礼拝では年長児が土樋キャンパスを訪問し、ラーハウザー記念礼拝堂にてパイプオルガンの演奏を聴くなど、東北学院の建学の精神を感じる活動とすることができました。また、夏に行われたサマーデイキャンプでは、利府にあるキリスト教キャンプ場にて、礼拝やオリエンテーリングを行うなど、2022年度は感染防止対策を取りながらも、宗教活動が大きく前進した一年となりました。

2022年4月15日（金）　イースター礼拝

2022年6月3日（金）　花の日礼拝

2022年6月3日（金）
多賀城キャンパスを訪問し、
お世話になっている方々にお花をプレゼント

2022年6月10日（金）
土樋キャンパス訪問
理事長・院長先生にお花をプレゼント

2022年12月16日（金）　クリスマス礼拝

1．年間主題

つながって　～今、わたしを生きる～

2．年主題聖句

主がすべての災いを遠ざけて　あなたを見守り　あなたの魂を見守ってくださるように。あなたの出で立つのも帰るのも　主が見守ってくださるように。

今も、そしてとこしえに。　（詩編121篇７～８節）

3．礼　拝

合 同 礼 拝：毎週金曜日　10時20分～10時40分

クラス礼拝：月～木曜日　10時10分～10時20分

4．特別礼拝

４月８日（金）　2022年度始業礼拝

４月11日（月）　入園式　　野村　信先生（宗教センターチャプレン）

４月15日（金）　イースター　野村　信先生（宗教センターチャプレン）

６月３日（金）　花の日礼拝・工学部訪問

６月10日（金）　花の日礼拝・土樋訪問

７月20日（水）　１学期終了礼拝

７月20日（水）　サマーデイキャンプ

８月26日（金）　２学期始業礼拝

11月18日（金）　感謝祭礼拝

12月16日（金）　クリスマス

第一部　鐸木 道剛先生（理事長特別補佐）

第二部　野村 信先生（宗教センターチャプレン）

３月16日（木）　卒園式　原田 浩司先生（宗教センター主任）

３月20日（月）　2022年度修了礼拝

5．礼拝説教担当者

宗教センターチャプレン　野村信先生

理事長特別補佐（宗教センター担当）鐸木道剛先生

＊年間14回

６．園児対象活動

（1）聖書物語絵本をとおしてのキリスト教教育

（2）聖句カード帳による聖書理解

（3）聖書箇所暗唱

７．保護者対象活動

（1）月刊新聞「ともに育つ」配布（キリスト教保育連盟発行）

（2）クリスマス準備会

日時：2022年11月30日（水）　10時～11時

場所：多賀城キャンパス礼拝堂

内容：クリスマス講話　野村信先生（宗教センターチャプレン）

（3）クリスマスコンサート　＊新型コロナウイルス感染症防止対策の為中止

８．教師対象活動

（1）朝拝：８時25分～８時30分

（2）キリスト教講話　感染防止対策により中止

（3）月刊誌『キリスト教保育』輪読

（4）祈祷会　2022年６月７日（火）　15時30分～16時30分　参加者：13名

９．キリスト教保育連盟研修会

〈総会・第１回研修会〉

日　　時：６月10日（金）　14時～（オンライン開催）

参加教員：５名

〈第２回研修会〉

日　　時：８月４日（木）　14時～（オンライン開催）

参加教員：６名

〈第３回研修会〉

日　　時：８月19日（金）　13時～（オンライン開催）

参加教員：１名

〈第４回研修会〉

日　　時：10月15日（土）　13時30分～　（オンライン開催）

参加教員：５名

土樋訪問について

東北学院幼稚園　園長　島内　久美子

宗教活動の再考

〔建学の精神の理解〕

TG Grand Vision 150第Ⅰ・Ⅱ期中期計画の重点項目でもある建学の精神を理解することは、幼い園児には難しく、礼拝をとおして神様の愛、イエス様による許しを知ることで建学の精神の理解へとつなげていました。しかし、東北学院幼稚園に入園し、日々の礼拝などをとおし、キリスト教による人格形成の基礎を培った園児が、隣人愛の精神を心の根底に据えて成長していくことを願っていました。そこで、特別伝道礼拝である「花の日礼拝」に土樋キャンパスを訪問し、お花を渡す活動を計画しました。

土樋キャンパスに訪問し、歴史を感じる建物を実際に見た園児は、圧倒されたり、想像していた建物と違い困惑したりする園児も見られました。しかし、理事長先生、院長先生をはじめ、管轄部署の方々に温かく迎えられた中でお花を渡すことができ、沢山の方々に支えられて成長していること、その感謝を自分たちも伝えることができる喜びを感じることができました。同時に、自分たちも東北学院の一員であることを実感したように思います。

次にラーハウザー記念礼拝堂を見学させていただきました。三校祖の肖像画とステンドグラスを拝見することができたことは、園児にとって大変貴重な経験となりました。また、初めて礼拝堂でお祈りをする姿は、いつもの園で祈る姿とは違い、子ども達も厳粛な雰囲気に包まれ、いつもより真剣に祈っているように見えました。

その後、礼拝が終わった直後ということで、奏楽担当の先生のご厚意により、パイプオルガン演奏を聴かせていただきました。初めて聴く礼拝堂に響き渡る大きな音に耳を塞ぐ園児もいましたが、荘厳な礼拝堂の中で、心静かにお祈りすること、パイプオルガンの音色を聴いた経験は、園児にとって幼き日に作り主を覚えるきっかけとなったように思えます。

今後も、建学の精神の種を園児の心に蒔き続けていきたいと思います。

東北学院
「宗教活動報告書」

第４号（2022 年度）

発　行　日　2023 年７月 31 日
発行責任者　宗教センター所長　大西　晴樹
編集責任者　宗教センター主任　原田　浩司
出　版　社　株式会社佐々木印刷所
問い合せ先　東北学院宗教センター
〒984-8588　仙台市若林区清水小路３－１
電話 022－354－8310